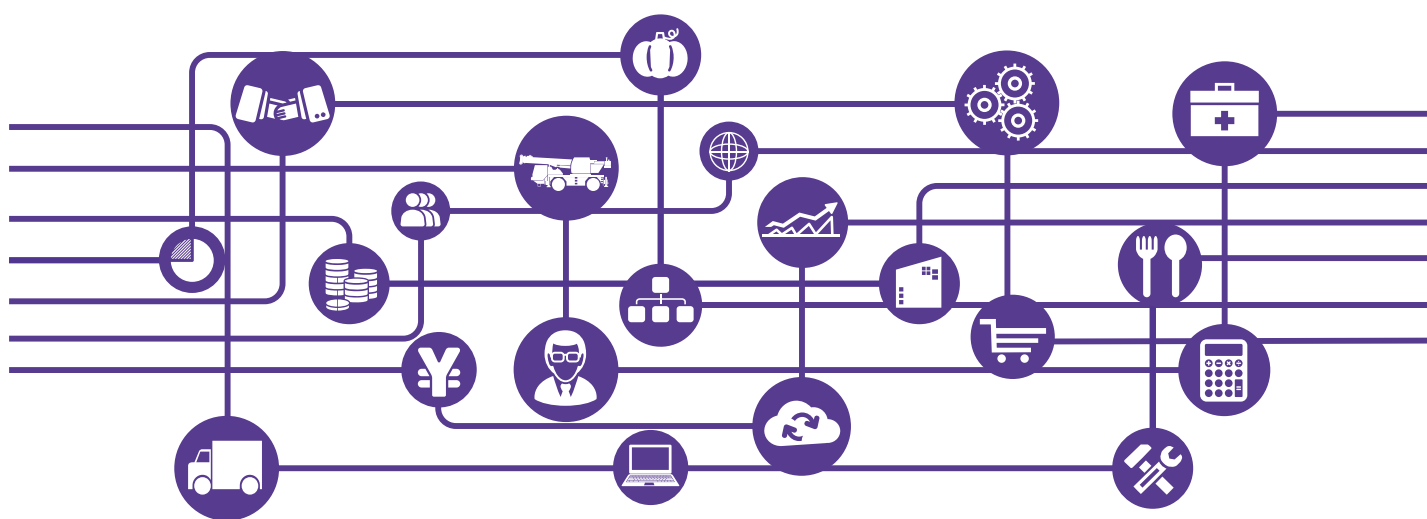


～ 士 業 ～





上場企業からも信用されている
『PCAクラウド』の実績。
『PCA会計X』の豊富な管理会計機能で、
数字に関心を持つ経営者を増やす。

小澤・曽川税理士法人

新大阪に拠点を構える小澤・曽川税理士法人。税務部門に強い小澤氏、会計コンサルティング部門に強い曽川氏の2名がタッグを組み、同法人を設立したのは2015年8月。大企業から中小企業まで様々な規模の企業に対応しており、顧問報酬も従来にはあまりなかった合理的な考え方を採用している。スマートに時代の流れをとらえた税理士法人が導入したのが『PCA会計X クラウド』だ。新しいチャレンジを続ける税理士法人でPCA製品がどのように活用されているのかを伺った。

導入システム

- PCA クラウド BPO プラン (1GB 5CAL)
- ・PCA 会計 X クラウド

導入の狙い

- ・よりスピード感のある月次決算処理を行いたい。
- ・上場企業のグループ会社の会計データを確実かつ安全に取り扱いたい。
- ・企業経営者が自社の数字によりいっそうの関心を持つようにしたい。

導入効果

- ・『PCAクラウド』によって顧問先企業と最新の会計データを共有。月次決算処理の時間のスピードアップだけでなく、精度も高められた。
- ・PCAは、「ソフト」と「環境」のワンストップクラウドでの提供のため、上場企業でも信頼され、実績も豊富
- ・『PCA会計X』の豊富な管理会計機能によって、様々な計算書をスムーズに出力。業績拡大のチャンスに繋げる。

プロフィール

小澤・曽川税理士法人

- 所在地: 〒532-0003
大阪府大阪市淀川区宮原5丁目1番18号
新大阪第27松屋ビル1405号
- 創立: 2011年1月 ※小澤会計事務所
- 設立: 2015年8月
- 従業員数: 6名
- 事業内容: 税理士業／会社設立代行、起業、融資相談
- URL: <http://ozawakaikei.jp>





小澤・曾川税理士法人
公認会計士・税理士
小澤 悠二 氏



小澤・曾川税理士法人
公認会計士・税理士
曾川 俊洋 氏

導入前の運用と課題

○時代に即したサービスを追及する税理士法人。効率的な会計業務を行うためには

小澤・曾川税理士法人では従来の会計事務所のサービスに次々と新しいセンスやチャレンジを加え、これからの時代にふさわしい税理士法人・会計事務所の形を築こうとしている。例えば顧問報酬は定額制ではなく、顧問先がサービス内容を選択でき、それに応じた料金システムを用意。月次の帳簿をなるべく早く作成するスピード感へのこだわり。また大企業から中小企業まで様々な規模の企業に対応し、中小企業が事業規模を大きくしていくためのコンサルティングを行う株式会社も運営している。そんな新しい挑戦を続けている同法人では、顧客との従来の会計データのやり取りについて非効率さを感じていたという。

「数社の顧問先の会計データを受け取るために、それぞれの日程を調整して訪問したり、事務所内の職員が同時に複数名で入力できなかったり…。このような作業にあたるたびに、『今後、こういう時代は続かないだろうな』と思っていました」(公認会計士・税理士 小澤悠二氏)

そんなときある企業から顧問の依頼があった。上場企業のグループ会社であるその新規の顧問先から「クラウドのような会計システムはないのですか？」と聞かれたことが、『PCAクラウド』導入のきっかけになった。

選定のポイント

○上場企業からも信用されるPCAの実績を評価

同法人では次の3つの条件から『PCAクラウド』導入を決めた。①顧問先企業の経

営者とその親会社の双方がいつでも会計データを確認できるようにすること。②なるべくコストを抑えて導入できること。そこで『PCAクラウド BPOプラン』の明確で導入しやすい料金システムには魅力があると感じた。そしてもう一つ、導入に欠かせない条件があったという。

「それは、③上場企業に信頼されているソフトウェアメーカーであることです。クラウドを導入している会計ソフトはPCA以外にもあったのですが、クラウドシステムと会計ソフトの両方を1社が一貫して提供し責任を取るというメーカーはPCAしかありませんでした。上場企業の関連会社の会計データを取り扱うわけですから、実績があり安全だと思えるメーカーでなければならなかったのです」(小澤氏)

導入後の効果

○『PCAクラウド』によってスピードに“精度”を加えられた

実績と安全面を評価され導入された『PCA会計X クラウド』だが、「その導入効果はすごくよかった！」(公認会計士・税理士 曾川俊洋氏)と好評だ。まず同法人のモットーでもある「スピード感」については、『PCAクラウド』によって顧問先企業と同法人の双方にメリットをもたらしている。

一般的な会計事務所が月次決算を提出するための時間は早くても1カ月、多くは2カ月の時間をかけるケースが多い。小澤・曾川税理士法人ではアウトソーシングの経理請負・経理指導サービスを行っており、顧問先から会計資料をもらってから1カ月で数字を入力・処理し、顧問先へ報告に行くケースが多かった。

「『PCAクラウド』導入によって、これまで約1カ月の時間が必要だった月次決算処理の時間は10日間ぐらいに省略できました。顧問先に『今、決算が出たのでご確

認ください』とお伝えすれば、いつでもそれを確認していただけるわけですから、訪問時間の調整などの手間も必要なくなりました」(小澤氏)

「早期決算が目的だったので、『PCAクラウド』によってその目的はしっかりと果たせました。顧問先の経営者が入力途中のデータを確認することもでき、進捗状況も把握していただけます」(曾川氏)

「データを双方が確認・共有できることで、入力途中の疑問点や数字の間違いなどにも早めに対応できます。決算処理のスピードは頑張ればなんとかありますが、クラウドによって得られた大きな結果はスピードよりもむしろ精度かもしれません」(小澤氏)

○企業の業績拡大のカギをにぎる部門別管理をスムーズに出力できる

『PCA会計X』の管理会計機能についても評価が高い。まず部門別管理が細かく設定・分析できることで、スピーディーかつ計画的な経営判断に有効だと曾川氏は語る。

「『PCA会計X』では部門別の売上や損益、予算実績などを簡単に出すことができ

ます。正確に部門別の数字を出すことで、その会社にとって伸ばすべき事業が見えてきます。ベンチャー企業などにとってはぜひとも使ってもらいたい機能ですね。この部門別管理を特に難しい操作を必要とせずにスムーズに出せる。これはとても価値のあることだと思います」(曾川氏)

また会計データの間違いがないかを確認する場合に、合計残高試算表画面から目的の勘定科目を指定して補助科目残高一覧表を確認したり、補助科目残高月次推移表によって月次推移を一目瞭然で確認できるなど、正確な会計データを出すための機能が充実している点も評価している。

「正確なデータを守るという部分では、過去データの操作禁止機能が付いている点もよいと思います。上場企業ではいったん出した決算は決して触ってはいけないのですが、中小企業の場合は後から修正するケースもあります。そのため企業の規模や事情に応じて柔軟に対応できる会計ソフトが望ましいのですが、今回『PCA会計X』を導入してあらためて大企業から中小企業まで幅広く使えるソフトだと実感しました」(曾川氏)



小澤・曾川税理士法人が拠点を構える「新大阪第27松屋ビル」外観。

システム概況図

顧問先と最新データを共有。
月次決算処理の「スピードアップ」と「精度プラス」。



豊富な「管理会計機能」「分析資料」
(企業の業績拡大のカギ)

経営者が数字を見る機会が増える
→伸ばすべき事業が見えてくる



- 「部門別管理」をスムーズに出力(売上、損益、予算実績)
- 過去データの操作禁止機能
- 会計データの間違いを確認する機能
- 「キャッシュフロー計算書」「部門別一覧表」「予算実績比較表」「経営分析表」

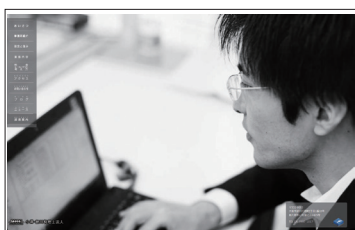




オフィス内の様子



小澤氏、曽川氏をはじめ、従業員の皆様の意気込みを感じる取材となりました。

小澤・曽川税理士法人 HP
<http://ozawakaiei.jp>

○『PCA会計X』の管理会計機能によって、経営者が数字を見る機会を増やす

会計事務所に限らず、『PCA会計X』を導入する企業には、ぜひ有効に活用してもらいたい機能があるという。それはキャッシュ・フロー計算書だ。『PCA会計X』のキャッシュ・フロー計算書は、仕訳の全額を1件1件計算していく「積み上げ方式」を採用しているため、完全なキャッシュ・フロー計算書を自動的に作成することができる。もちろん部門別の集計も可能だ。

「中小企業の場合、損益計算書と貸借対照表さえしっかり入力・出力していれば安心だと思う経営者がおられますが、『PCA会計X』にはボタン一つでその先にあるキャッシュ・フロー計算書を出すことができます。資金繰りを知るうえでキャッシュ・フロー計算書はとてもわかりやすくお金の流れを把握でき、悪いところもよく見える性格の計算書ですから業務の改善にも役立ちます」(小澤氏)

このキャッシュ・フロー計算書を始め、部門別一覧表、予算実績比較表、経営分析表など『PCA会計X』には管理会計に役立つ集計や帳票が豊富に用意されている。多くの会計ソフトを見てきた両氏は「PCAの管理会計機能・分析機能はトップクラス」だと声をそろえる。

「『PCA会計X』はクセのない会計ソフトだと思っており、ある程度の経理経験を持つ人なら難なく使えると思います。様々な分析表や計算書をすんなりと出せることによって、経営者が数字を見る機会も増やせると思います。成功している企業の経営者には数字をよく見るという共通点があり、日々決算を出している企業もありますが、そこは毎年売り上げが伸びています。数字

を見ることによってその企業の課題が見つかります。でもそれが本当に課題かどうかを確認するには根拠が必要で、それが数字です。その数字をすばやく出すことが私たち会計事務所の仕事でもあるのですが、分析機能が充実した『PCA会計X』なら企業経営者が能動的に日々の数字を追っていくことも可能だと思います」(小澤氏)

今後の展望と課題

○多様化する顧問先企業のニーズに細かく対応できる税理士法人として

同法人が『PCA会計X クラウド』を導入したのは、顧問先である上場企業のグループ会社の迅速な決算処理のためだけではない。今後の日本の社会情勢を見据えた上で、会計事務所・顧問先企業の双方にメリットを生み出せるのが『PCAクラウド』だと考えたからだ。

「人口が減少し経理要員の安定的な雇用も厳しくなる中、欧米企業のように経理部門をアウトソーシングする企業はさらに増えるでしょう。その際重要になるのは税理士・会計士とすぐに連絡が取れ情報を共有できることです。当法人ではそのような将来にも対応できる体制を整えており、もう一方の株式会社では企業価値の評価や事業譲渡のコンサルティングも行っています。顧問先企業にとっても将来を見据えた提案ができます」(小澤氏・曽川氏)

社会が多様化し企業のニーズやあり方も多様化する今、同法人はPCA製品などを巧みに活用しつつ、個々の顧問先企業の細かなニーズに対応できる会計事務所・税理士法人として存在感を高めようとしている。

ピー・シー・エー株式会社

pca.jp

Since 1980.8.1

本社 〒102-8171 東京都千代田区富士見1-2-21 PCAビル TEL.03(5211)2700 FAX.03(5211)2740



自計化の促進よりも、決算までの時間を短縮化・効率化するための『PCAクラウド』。PCAソフトの機能を使った顧問先への有効なプレゼンテーションとは

税理士法人 ブレイン

近畿のみならず全国にクライアントを持つ税理士法人ブレイン。代表を務める公認会計士・税理士の倉島進先生は、歯切れのよい言葉でわかりやすく経理・企業経営・社内管理体制改善を語り、書籍の執筆の他、大学の講師も務めている。現在、同事務所では『PCAクラウド』を利用したサービスを提供している。倉島先生ならではのユニークな視点によって語られるPCA製品の利用方法や可能性。会計事務所だけでなく、経営者の立場から見ても有効な活用方法について伺った。

導入システム

○PCA クラウド BPO プラン (4GB モデル 20CAL)

- ・ PCA 会計 X クラウド
- ・ PCA 給与 X クラウド
- ・ PCA 商魂 X クラウド
- ・ PCA 商管 X クラウド
- ・ PCA 社会福祉法人会計 V.5 クラウド

導入の狙い

- ・お客様とのやりとりで、最新データがわからなくなるなどのリスクを減らしたい。
- ・遠隔地のお客様にもきめ細かなサービスを提供したい。
- ・経営者が数字を把握し、経営をコントロールできる仕組みを提供したい。

導入効果

- ・データのやり取り不要の『PCAクラウド』で煩雑な管理を最小限に減らすことが出来た。
- ・『PCAクラウド』+「Skype™※1」の組み合わせで、会計事務所のサービス価値を大きく向上できた。
- ・『PCAクラウド』の機能をベースに会社経営にとって有益な管理資料を作成でき、真の自計化を推進できた。

プロフィール

税理士法人 ブレイン / 株式会社 ブレイン

- 所在地: (神戸オフィス) 〒650-0027 神戸市中央区中町通2丁目3番2号 三共神戸ツインビル3F
(大阪オフィス) 〒530-0047 大阪市北区西天満4丁目13番8号 尼信ビル8F
(東京オフィス) 〒105-0001 東京都港区虎ノ門1丁目21-10-1708
- 設立年月: 平成13年6月
- 従業員数: 21名
- 主業種: 税理士業/会計士派遣・紹介・育成支援
- URL: <http://www.xbrain.jp/>

「必要な時に必要な分だけ」 あなたのチームの即戦力!

□企業理念:
従来の会計事務所のような顧問契約にとらわれず、「必要な時に必要な分だけ」プロとしてのサービスを提供することをコンセプトに、上場会社から中小企業をはじめ新規事業者まで、財務・会計に関する支援や経営に関するサービス提供と、セミナー等による各種情報の提供を基本理念としております。

※1)「Skype™」は、Microsoft®が提供するP2P技術を利用したインターネット電話サービスです。



税理士法人 ブレイン
神戸代表
(公認会計士・税理士)
倉島 進 氏



神戸オフィス

導入前の運用と課題

○最新の会計データを確実に管理・共有できる方法とは

税理士法人ブレインの代表を務める公認会計士・税理士の倉島進先生。平成13年には株式会社ブレインを設立し、上場企業向けのコンサルティング事業やベンチャー企業設立の支援なども行っている。会社の規模を問わず、あらゆる業種の企業の経理・会社経営を様々な角度から分析し、支援してきた立場として、『PCAクラウド』のメリットには、まずデータ管理の煩雑さを最小限に減らせる効果を挙げたいと語る。

「当事務所はクライアントが日本全国にまたがっています。企業の規模や業種は多種多様ですが、いずれも共通した課題が会計データの管理の問題です。当事務所とお客様との間でデータをやり取りしているうちに、どのデータが最新なのかがわからなくなってしまう。そのようなリスクを減らす方法を探していました」(倉島氏)

選定のポイント

○「ちゃんとうちの会社を見てくれている」そんな安心感を与えるための『PCAクラウド』

税理士法人ブレインが『PCAクラウド』に注目した理由は、最新の会計データの確実な管理・共有以外にもある。それはクライアント・会計事務所の双方の負担を減らしながら、時間を有効的に使えることだ。実は同事務所では以前からインターネット通話サービス「Skype™(スカイプ)※1」を利用した顧客とのやり取りを開始していた。

「どの会計事務所でも遠隔地のクライアントとの密なやり取りは難しいと思います。当事務所では「Skype™」によって経営会議に参加したり、決算書の具体的な箇所を同

時に見ながら確認を取り合うことを以前から始めていました。「Skype™」は音声だけでも利用できるのですが、お客様側としてはお化粧や着替えの手間もいりません。他にも遠隔地向けのサービスがないかを考えていたときに、『PCAクラウド』が始まりました」

会計事務所における時間の効率化が重要なのは、ただ事務所内の作業負担を減らすことではないと倉島氏は語る。時間を効率化することで生まれる新しい時間をクライアントとの対話に使うためだ。

「お客様のご不満で一番大きいのは、顧問料を支払っているのに肝心の会計士と話せないことです。どのお客様も会計士にちゃんと見てもらいたいと思っておられます。そこで電車や車の移動時間をクラウドによって節約することで、お客様と話す時間が生まれ、その結果、お客様の中に確実に会計データを見てもらっているという安心感が生まれます。そういった意味でも会計士事務所が『PCAクラウド』を導入する意味は大きいと思います」

導入後の効果

○簡易にネットワークが組めることのメリット。実際に作業効率が上がった顧問先も

『PCAクラウド』のメリットの中で、「簡易にネットワークが組める」ことは、コスト面から見ても小さな会社にとって非常に便利な点だと評価している。

「会社の規模や業態によってももちろん差はありますが、拠点が2カ所以上ある事業所や、経理担当者が2、3名以上在籍している企業であれば、ネットワークを組んで会計処理の方が効率的です。しかし専用回線を引きサーバーを立ててネットワークを構築するとそれなりの費用がかかります。しかし『PCAクラウド』なら大掛かりなシステム導入は不要で、かつ経理担当者それぞ

れのデスクのパソコンから入力できます。実例をご紹介しますと、以前は1台のパソコンを譲り合いながら入力していた顧問先の企業が、『PCAクラウド』導入によって座席の移動やサーバーメンテナンスの苦勞がなくなり、作業効率が上がったという報告を受けています」

○自計化の促進よりも、決算までの時間を短縮化できることに意味がある

経理担当者が各自のパソコンから入力でき、会計データを入力しやすくなることは自計化に繋がりそうだが、倉島氏はクライアントの自計化については必ずしも強く求めている部分ではないと語る。

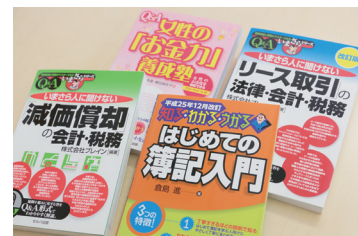
「大事なのは自計化が進むことよりも、決算までの時間を短縮化することです。自計化についての解釈は会計士それぞれにあると思いますが、私の場合は自計化の本来の目的は会社経営者が数字を把握するためのものだと考えています。社長がいつでも見たい数字を見ることができ、経営をコントロールできること。そのために経理担

当者はなるべく無駄な作業を省いて、遅滞なく正しい会計データを入力しておくこと。これがおそらく理想的な自計化の形で、『PCAクラウド』のシステムならそれを実現できます」

『PCAクラウド』によって簡易にネットワークを組めることによるメリットは、会計事務所内においても同様だ。同事務所では拠点が神戸市以外にもあるため、『PCAクラウド』を利用して各拠点のスタッフが協力して入力を進めることができる。さらに顧問先においては会計データを頻繁に会計事務所側に確認してもらえることで、ミスの修正もはやり。それが決算の早期化へと繋がる。

○『PCA会計X』の機能を使った顧問先への有効なプレゼンテーション

PCAの会計ソフトについても倉島氏は使い方次第で、企業の経営判断や会計事務所から顧客への提案ツールとしてかなり有効に利用できると考えている。その一つが『PCA会計X』の「キャッシュ・フロー計算書」の機能だ。



左上:『Q&A 女性の「お金力」養成塾』
倉島 進/植田 麻衣子(著)

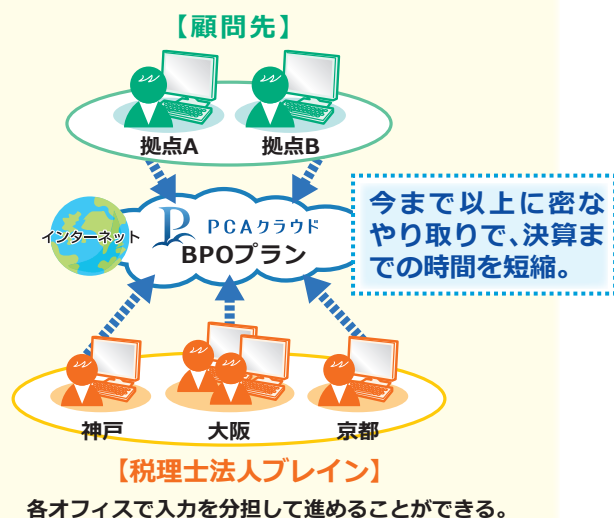
右上:『いまさら人に聞けない「リース取引」の法律・会計・税務Q&A【改訂版】(基礎知識と実務がマスターできるいまさらシリーズ)』
株式会社ブレイン(編著)

左下:『いまさら人に聞けない「減価償却」の会計・税務Q&A(基礎知識と実務がマスターできるいまさらシリーズ)』
株式会社ブレイン(編著)

右下:『平成25年12月改訂 知る・わかる・わかる はじめての簿記入門』
倉島進(著)

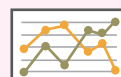
システム概況図

会計士が常にチェックしてくれる「安心感」と、会計士と話す機会が増えることで「信頼感」が増す。



【税理士法人ブレインから顧問先へのプレゼンテーション例】

PCA 会計X



- ①「キャッシュフロー計算書」によって、自社のお金の流れを客観的に分析できる。
- ②「税抜・税込」の表示切替が簡単にでき、納税の準備がしやすい。
- ③「月次推移表」では、月ごとの発生金額または累計金額の集計を切り替えられる。
- ④「管理仕訳」によって、売上のシミュレーションを立てやすくなり、会社経営に有効な管理資料を作成しやすい。



経営者が、自社の数字をきちんと確認できるようになる。



税理士法人ブレイン HP
http://www.xbrain.jp/



ブレイン会計士 info HP
(会計士の派遣・紹介・育成支援)
http://www.kaikeishi.info/

「キャッシュ・フロー計算書を使う企業はあまり多くはないのですが、『なぜうちの会社のお金が足らなくなったんだろう』という謎を解くにはとても有効な財務諸表です。ただし作り方がわからないという声をよく聞きます。『PCA会計X』ではお金の流れがよく見えてくる直接法のキャッシュ・フロー計算書を、最初の設定さえ確実に入力していたら、あとはほぼ自動的に作成でき、自社のお金の流れや支払い能力を客観的に判断できる材料として使えます」

他にも税込/税抜表示の切り替えが簡単にできることで、今はまだ消費税の納税が義務付けられていない小さな企業や個人事業主が、売上から判断して来年度は消費税の納付が必要になり、それがいくらかの金額になりそうかを、当年度の数字を税込/税抜へ切り替えて比較することである程度の準備ができる。

「月次推移表」は四半期ごとの集計が可能で、月ごとの発生金額または累計金額で集計でき、構成比と増減比をそれぞれ表示できる。この点は非常に便利に使えていると評価が高い。

また「管理仕訳」については、実際の決算処理には使用していないものの、経営者に売上のシミュレーションを示すときにはとても有効だと話す。

「『PCA会計X』は5区分の管理仕訳区分の名称を自由に変更でき、管理区分を絞り込んだ出力もできます。柔軟に入力できるため、ここに仮の数字を入れて大まかな売上のシミュレーションをつくることができます。会計に関する諸法令や帳簿組織にとらわれずに、会社経営にとって有効な管理資料を作成でき、例えば銀行との交渉時などに、あくまでもシミュレーションと前置

きしたうえで大まかな自社の売上を説明するには便利に使える機能だと思います」

今後の展望と課題

○『PCA建設業会計』は出版業やイベント業などプロジェクト毎に動く業界にも適している

今後、同事務所では『PCA建設業会計』を建設業ではなく他の業種にも応用していきたいと考えている。『PCA建設業会計』の特徴として科目を工事別つまりプロジェクト別・イベント別に管理でき、プロジェクト毎の経費を詳細に知ることができる。プロジェクト単位で仕事を動かしているのは建設業だけでなく出版業やイベント業も同じだ。そこでイベントの原価を詳細に知るためにも『PCA建設業会計』は有効に使えていると考えている。

「様々な会計ソフトがありますが、どんな会計ソフトがよいのかと聞かれたら、それは経営者が数字をよく見るようになる会計ソフトだと思います。試算表を誰に見せるためにつくっていますかと聞いたら、多くの人は銀行あるいは税務署と答えるかもしれませんが。しかし本来一番見ないといけないのは社長です。健康診断表の数値と同じで『数字を見なくても感覚でわかる』と思っていたら取り返しのつかないことになっている可能性もあります。今後もPCAには『見やすさ・わかりやすさ』を追求したソフトやシステムを開発してもらい、私たちもお客様にとって効率的な会計業務を提案していきたいです」

ピー・シー・エー株式会社

pca.jp

Since 1980.8.1

本社 〒102-8171 東京都千代田区富士見1-2-21 PCAビル TEL.03(5211)2700 FAX.03(5211)2740



約100の公益法人と『PCAクラウド』による
確実な会計支援を実現。

顧問先がスムーズにクラウド利用できる
組織的な導入支援システムも確立

辻・本郷 税理士法人 辻・本郷 ITコンサルティング株式会社

日本有数の大手税理士法人として知られる辻・本郷 税理士法人。200名を超える公認会計士・税理士が、各分野に特化した専門チームに編成され、全国各地に広がるクライアントの税務支援・会計支援を行っている。IT面からの支援にも積極的で、辻・本郷 ITコンサルティング株式会社を設立。『PCAクラウド BPOプラン』によって、100を超える法人が『PCA公益法人会計V.12』を導入している。クラウドだからこそ実現できた会計支援の形、さらに大規模導入におけるアドバイスなども伺った。

導入システム

○PCA クラウド BPO プラン ※1

- ・ PCA 公益法人会計 V.12 for SaaS
- ・ PCA 社会福祉法人会計 V.5 クラウド
- ・ PCA 医療法人会計 for SaaS
- ・ PCA 会計 X クラウド
- ・ PCA 給与 X クラウド
- ・ PCA 会計 9V.2R7 for SaaS

※1:【BPOプラン】会計事務所・社会保険労務士事務所・アウトソーシング向けプラン

導入の狙い

- ・全国各地の遠隔地に広がる顧問先。その訪問に費やす時間的な負担を軽減したい。
- ・多くの顧問先が抱える、「データ保管」「クラウド導入費用」「問い合わせしやすい環境」の問題を解消したい。

導入効果

- ・『PCAクラウド』によって、遠隔地の顧問先とデータを共有。訪問しなくても、電話を利用しながら顧問先の疑問に対応。リアルタイムに最新データを確認。
- ・『PCAクラウド BPOプラン』で、「導入」「データの自動バックアップ」「複数の問い合わせ窓口対応」を低価格で実現。

プロフィール

辻・本郷 税理士法人 辻・本郷 ITコンサルティング株式会社

- 所在地: 〒163-0631 東京都新宿区西新宿1-25-1 新宿センタービル31階
- 設立: 平成14年4月1日
- 主な業務内容: 税理士・会計士・社会保険労務士
ITビジネスコンサルティング業務
- URL: [辻・本郷 税理士法人] <http://www.ht-tax.or.jp/>
[辻・本郷 ITコンサルティング(株)] <http://www.ht-it.jp/>

□会社紹介:
お客様の多様なニーズにお応えするため、各専門分野別に特化した専門チームを編成しております。顧問先企業数6,700社を超える豊富な経験と実績、プロフェッショナル集団としての組織力を活かし、お客様にご満足いただける最高水準のサービスを提供いたします。

※ 2012年 10月に、『PCA for SaaS』から『PCAクラウド』へ名称を変更いたしました。



辻・本郷 ITコンサルティング(株)
営業部 マネージャー
海老原 章洋 氏



辻・本郷 税理士法人
公益法人部 部長 税理士
市川 琢也 氏

導入前の課題と選定ポイント

○全国各地に広がるクライアント。距離と時間の問題を解決するには？

6,700社にのぼる顧問先を持ち、全国37カ所の拠点で、200名(2015年1月現在)の公認会計士・税理士が活躍している辻・本郷 税理士法人。日本各地にクライアントが広がっており、その中には交通の便のあまりよくない地方都市のクライアントも多い。『PCAクラウド』の導入も、やはり東北のある公益法人がきっかけとなった。

「当法人は東北から沖縄まで支部があります。公益法人については、地方都市の中でもさらに中心部から離れた場所に構えておられる場合も多く、車で片道2時間、往復4時間かかる場所もあります。これでは移動だけで一日仕事になってしまい、現場の担当者からも『距離と時間』の相談を寄せられていました」(辻・本郷 ITコンサルティング株式会社 営業部 マネージャー 海老原章洋氏)

そこで3年前に導入されたのが『PCAクラウド』だった。『PCAクラウド』の選定については、会計ソフトのクラウドでPCAがパイオニア的存在であったこと。そして他社の場合は、ソフトウェア設定とクラウド環境の導入をそれぞれ別会社で請け負うケースがあるのに対し、PCAではソフトもクラウドもPCA1社で完結して提供していることから、「導入もしやすい」と考えたそう。

現在『PCAクラウド BPOプラン』によって、およそ100もの公益法人が『PCA公益法人会計V.12』を導入。『PCA会計X』『PCA社会福祉法人会計V.5』も、まだ数は少ないものの、顧問先への導入が進んでいる。

導入後のメリット

○約100の公益法人と『PCAクラウド』で「確実なデータ共有」を実現

およそ100法人という多くの公益法人と『PCAクラウド』によって繋がることで、業務の流れは大きく変わったという辻・本郷 税理士法人。同法人内だけでなく顧問先にも安心感が生まれているようだ。まずは、もっとも大きなメリットは「データ共有」だと公益法人部 部長 税理士 市川琢也氏は挙げる。

「クラウドによって月次データや決算データを、顧問先様とリアルタイムで同じ画面を見ながらご説明できます。データも最新のものを共有できるため、タイムラグによる不一致はありません。またバックアップデータのやり取りは、顧問先様にとっても負担になっていました。私どもから送ったデータをうまく開くことができない・・・そのようなかつて頻繁に起きていた問題も、クラウドによって解消できたわけです」(市川氏)

他にも顧問先からの問い合わせにスピーディーに対応できる点もクラウドの良さだという。「スタンドアロンの場合は、導入ソフトによってパソコンや席を変える必要がありますが、『PCAクラウド』なら自分の席からわざわざ移動する必要もなく、目の前のパソコンですぐに顧問先様のデータを確認し迅速に対応できます」(市川氏)

一方、多くの顧問先が導入していることで、次のような課題も見えてきたという。「『PCA公益法人会計』をお使いの顧問先様において、消費税率改正に伴う対応版のダウンロードを一人一人のアプリケーションで行わなければならないのが、ちょっと大変でした。あらかじめ顧問先様にはメールでご連絡しましたが、それでもうっかりダウンロードをし忘れる顧問先様は出てきます。ですので次回の10%のときには自動アップデート機能があると便利ですね」(市川氏)

○2社の組織的な導入支援によって、安心してクラウド導入できる仕組みを確立

辻・本郷 税理士法人では、IT面からの会計支援にも力を入れており、辻・本郷 ITコンサルティング株式会社を設立。IT活用による会計業務・税務業務の向上から経営戦略の改善まで幅広く対応している。『PCAクラウド』の導入においても、2社がそれぞれ機能的に動くことで、顧問先がスムーズに導入できる手順が見事に確立されている。

まずは市川氏をはじめとする辻・本郷 税理士法人のスタッフが『PCAクラウド BPOプラン』のメリットを顧問先に紹介。導入を決めた顧問先には辻・本郷 ITコンサルティングの海老原氏が訪問し、インストールの手順から仕訳入力の方法まで基本的な使い方を説明している。顧問先へ訪問する前には、ユーザーIDをあらかじめ海老原氏が設定し、勘定科目の設定も前もって行っている。現地でインストールすれば、

直ぐに使用できる環境になっているため、現地作業も短縮でき、双方のメリットにもなっている。顧問先の立場から見ても、2社の組織的な導入支援はとても心強いだろう。なお市川氏からは次のようなアドバイスもいただいた。

「現在、遠方の顧問先様にもすべて海老原氏が訪問しインストール作業から行っています。このインストールをwebからダウンロードできると、遠隔地へ出向く負担が軽減でき、公益法人様にとってもクラウドをより導入しやすくなるのではないのでしょうか」(市川氏)

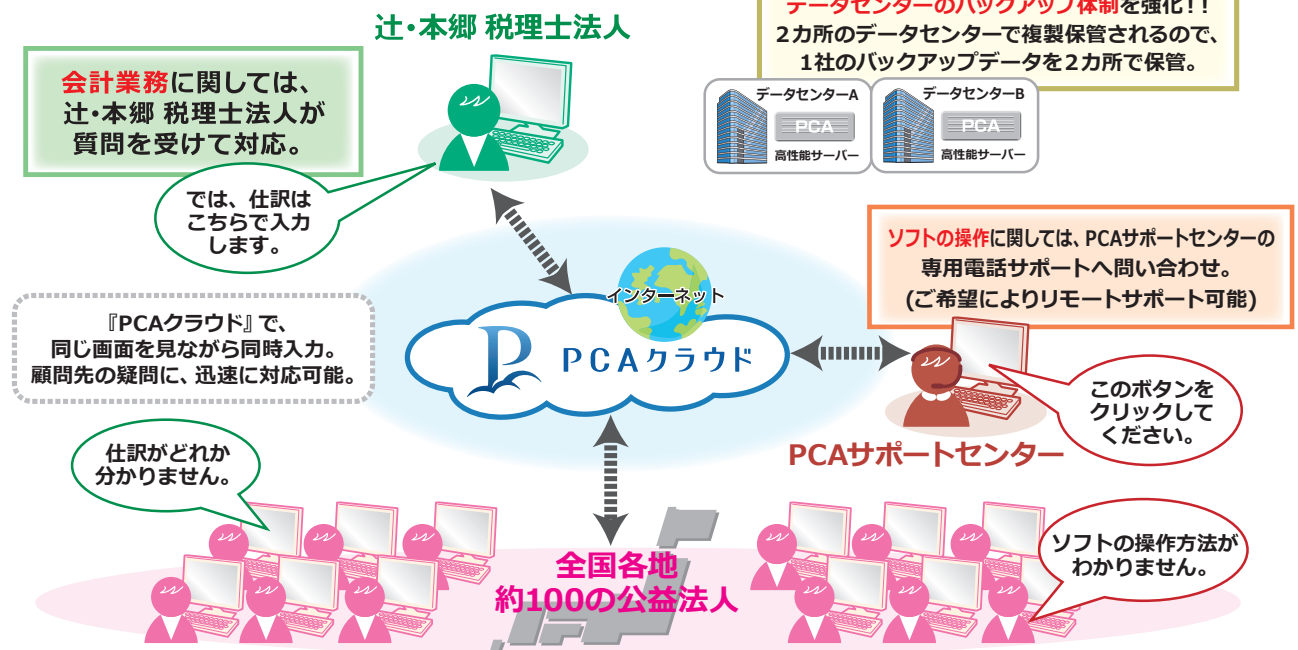
○『PCAクラウド』で顧問先に与えられるメリットは、便利さと大きな安心感

現在、新規の顧問先には『PCAクラウド BPOプラン』の導入を勧めている同法人だが、以前からの顧問先にも、積極的にクラウドの良さを伝えているそう。そしてその反応もよいという。



辻・本郷 税理士法人
広報営業部 主任
佐脇 ゆかり 氏

システム概況図





辻・本郷 税理士法人 HP
http://www.ht-tax.or.jp/



辻・本郷 ITコンサルティング(株) HP
http://www.ht-it.jp/

「やはり皆様が気にされるのはデータがいかに安全に守られるかの点です。そこでPCAのデータ通信の安全性やデータセンターでのバックアップ体制をご説明すると、多くの方がご理解されます。震災もあったため、『このパソコンが壊れたら、データはどうなる?』という不安をお持ちの顧問先様は非常に多いです。そのため仮にパソコンに何かがあってもデータが復旧できるという点に、大きな安心感を持ってもらえます」(海老原氏)

なおPCAではデータセンターのバックアップデータの管理をさらに強化している。2013年9月からは関西・関東のそれぞれのデータセンターのデータを、バックアップ専用通信回線経由でクロスし複製して保管しており、つまり1社のデータが2つのデータセンターで保管されている。

他にも、ユーザーIDを使い分けることで、何台のパソコンにでもダウンロードできる点も喜ばれるという。「このパソコンでもあのパソコンでも使えるんですよ」とご説明すると、よく驚かれます。特に上役の立場にあたる方に好評で、自分の席から移動せずにデータを入力・確認できる点は大きいと思います」(市川氏)

顧問先の公益法人はほとんどが中小規模のため、会計に詳しい人が複数名で常駐しているケースばかりではない。そのため顧問先にとっては、辻・本郷 税理士法人とPCAの2つの問い合わせ窓口を持てる点も、安心感の一つだろうと語る。また以前は「税理士さんの確認を待ってから」と入力途中で止めていた顧問先の場合でも、現在はデータが一元管理で共有でき、電話でも気軽に問い合わせながら入力できることで、顧問先の担当者のペースに沿って入力を止めなくてもよい環境も生み

出すことができたという。

「中小規模の公益法人様にとって、『PCAクラウド』は導入したくてもなかなか費用面で手を出しにくいと思います。しかし『PCAクラウド BPOプラン』によって、費用を大きく抑えながらもスタンドアロン版と変わらない利用ができます。当法人でも導入しやすくわかりやすい価格に設定しております。ただし顧問先様としては、クラウドの料金で選ぶのではなく、やはり当法人のコンサルティング力の高さを重視された上での検討をされています」(海老原氏)

今後の展望と課題

○顧問先のニーズに沿った、新しい形のITサポートも

大手税理士法人としてその規模感に注目が集まる辻・本郷 税理士法人だが、歴史と経験値の深さも伝えたいと広報営業部主任 佐脇ゆかり氏は語る。「弊社は全国に37カ所の拠点をもち、時代に即した総合的なサービスを行っておりますが、創業90余年の歴史も持つ税理士法人です。その経験値の深さがお客様の信頼に結びついていると思います。そういった中、IT面からのニーズに対してもより強化できるサポート体制ができました」(佐脇氏)

「以前は辻・本郷 税理士法人の事業の1つだったITサポートですが、新会社になったことで、これまでのサービスに加えて新しい形で顧問先様を支援していけるサービスも考えています。今後も顧問先様のニーズを伺い、ご希望に沿ったサービスを提供していきます」(海老原氏)

ピー・シー・エー株式会社

pca.jp

Since 1980.8.1

本社 〒102-8171 東京都千代田区富士見1-2-21 PCAビル TEL.03(5211)2700 FAX.03(5211)2740



士業向け専用プラン『BPO プラン』で
顧問先の業績をリアルタイムに把握し、
早期の顧客アドバイスへ活用！

東京会計グループ

税務・経理のエキスパートがそろった東京会計グループ。企業の会計業務や税金に関する相談だけでなく、業務合理化や事業承継などの各種支援事業まで幅広い業務を行っている。なかでも「公益法人専門サービス」「クラウドを利用した経理システム」は多くの企業から注目されており、同社の提供するサービスからは利用者が本当に求めている真のクラウドの姿が見えてくる。

導入システム

- ・ PCA 会計 9V.2R7 for SaaS
- ・ PCA 給与 9V.2R7 for SaaS
- ・ PCA 公益法人会計 V.12 for SaaS

導入の狙い

- ・ 移動(訪問)によるタイムラグをなくし、業務効率を図りたい
- ・ 顧問先のさらなる自計化(経理の自社処理)を推進したい
- ・ 顧問先へ高付加価値サービスを提供したい

導入効果

- ・ 顧問先への訪問・データ交換をせずに、リアルタイムで同じデータの確認が可能に
- ・ クラウドによる情報共有で経営判断が迅速化
- ・ 顧問先の自計化がより進み、月次決算の早期化が実現
- ・ 制度改正などへのスムーズな対応が可能に
- ・ 顧問先経理のレベル向上と経費削減

プロフィール

東京会計グループ (税理士法人 東京会計グループ/東京会計 株式会社)

□所在地:

東京 〒102-8411 東京都千代田区一番町 19 番地 全国農業共済会館 別館

福岡 〒810-0045 福岡県福岡市中央区草香江 2-2-32-206 ジャルダン大塚

熊本 〒860-0844 熊本県熊本市中央区水道町 9-29

資格の学校 TAC W セミナー 熊本校 〒860-0844 熊本県熊本市中央区水道町 9-29 (<http://tac-kumamoto.com/>)

□従業員数: 49 名

□設立年月日: 平成 18 年 11 月 1 日(グループ創業 昭和 62 年)

□事業内容: 会計・教育・コンピュータ事業の相互作用により、企業の総合的な成長、継続のバックアップを目指しています。

(会計事務所のサポート、租税に関する業務、会社経営の業務合理化に関する業務、相続税に関する業務、各種支援業務)

教育事業、委託職業訓練事業、リスクマネジメント・サービス、キャリア形成支援、特許・意匠・商標・実用新案)

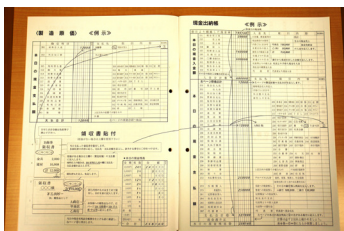
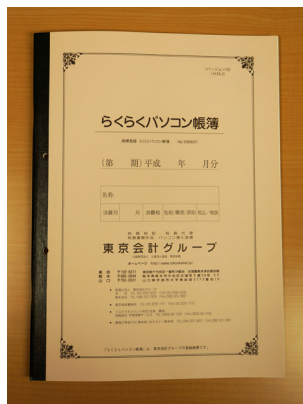
□企業 URL: <http://tokyokaikai.jp/>

【何事にも『一歩前へ』】

- ・ 毎月の試算表を最短翌月 1 日、決算を最短翌月 10 日でお届けしております。
- ・ 「お客様に正確で早い会計・税務情報をお届けすること」会計事務所としての基本業務を、時代に即した方式で行っております。
- ・ ご要望に応じて、事業計画・予算策定の支援も行います。
- ・ 東京・九州を中心に全国各地の顧問先に対応できます。
- ・ PCA ソフトとお客様の実務とをリンクさせ効率化することで、業務改善を行います。



事務所受付にて(坂井氏、米満氏)



自社ブランド製品『らくらくパソコン帳簿』
出力サンプル集



東京事務所 裏庭にて
皇居に最も近い畑で芋を栽培しており、
毎年11月に収穫祭を行っている。

平成23年4月に『PCAクラウドサービス BPOプラン』の導入を決定した東京会計グループ。平成24年10月現在、22社の顧問先が同サービスを利用し、複雑で多岐にわたる会計・税務処理をよりスムーズに行っている。公益法人を担当する坂井欣典氏と米満まり氏に、クラウドサービスならではの“安心感”について伺った。

導入前の運用と課題

○らくらくパソコン帳簿

以前から PCA 会計と自社のブランド商品『らくらくパソコン帳簿』を利用したサービスを行っていた東京会計グループ。同社から顧客にわかりやすい出納帳の雛形を渡し、そこに記入してもらうことで自計化を推進でき、顧問先からは定評あるサービスだった。そこにあえてクラウドを導入したのは東京と九州に顧客を持つ同社ならではの事情もあった。「当社は東京と九州にお客様がおられ、その分移動も多いです。今までは移動してお客様の質問にお答えしていたわけですが、私どもが行くまで会計業務はストップしたままでタイムラグが発生します。まれにデータの破損などのアクシデントもありました。そこで業務を効率化でき、さらにお客様に安心感を持てただけるサービスとして、PCA クラウドサービスの導入を検討しました」(坂井氏)

導入後の効果

○いつでもどこでも同じデータを確認

PCA クラウドサービスでは顧問先と同社がいつでもどこでも同じデータを確認でき、タイムラグは発生しない。クラウドを通じて顧問先からの疑問にも対応できるため、訪問する時間も短縮できる。「クラウドの最大の利点は時と場所を選ばないことです。お客様を訪問しなくても修正の指示や確認ができるので安心感があります」(坂井氏)。この“安心感”は東京会計グループにとってよりも、顧問先の実感の方が大きいようだ。「昭和 52 年に公益法人の会計基準ができ、その後幾度かの改正がありましたが、4 回目の改正にあたる今回は会計基準が大きく様変わりしました。なので経理担当者の方の不安も非常に大きかったのですが、PCA クラウドサービスなら新しい会計基準への対応も非常にスムーズで、前回の基準・今回の基準の両方を比較することもでき、数字も正しく設定できるよう作られていました。企業の経理担当者が、皆さん経理に詳しい方ばかりではありません。なので私どもと同じ画面を見れて、わからないときには PC 上に付箋をつけてメッセージを残せる点など、お客様の安心感は大きいと聞きます」(米満氏)

企業の経営者にとってもクラウドによる情報共有は大きな意味を持つ。つねに経理のデータを確認できるため、万が一の不正を防止することにも繋がる。顧問先の現状認識が早くなり、経営判断も迅速化した。また、合算処理の手間も大きく省け、とりわけいくつかの店舗を抱える企業にはクラウドはとても便利だ。「今までは FAX で各店舗から売上報告を受け取っていた場合でも、クラウドなら各店舗ごとの売上や全体の売上、1 日ごとの売上などを瞬時に確認でき経営戦略にも役立ちます。経営者にとってもメリットは大きいでしょうが、やはり経理の現場にいる方から『仕事が楽になった』という

声をよくお聞きしますね。給与についても社会保険率の設定などもすぐにわかりますから」(米満氏)

○自計化によって“経理が見える”

PCA クラウドサービスの導入によって、顧問先の自計化(経理の自社処理)もより進んだ。今までは帳簿の記入を顧問先に依頼し、それを同社がチェックする流れだったが、先述したように顧問先の担当者が皆経理に詳しいわけではない。そのため同社の指示に従うまま記入するだけだったが、クラウドサービスを利用することで経理の流れをつかむことができたという。「帳簿にこの数字をつけたらどうなるかは、ただ書き込むだけではわかりにくかったと思います。でもクラウドにしたことで、自分の入力した数字が金種表とつながり、初めて自分の行っていたことがわかったとおっしゃるケースもありました。自分の行う経理業務の流れがつかめたことで、経理ご担当者にはやり甲斐が生まれたのか、今までは月初め 10 日前後に数字のご報告をいただいていたのが、クラウド導入後は 2、3 日目には報告が来ます」(米満氏)

「自計化できることでお客様のステージも上がります。1 年クラウドを使っていたら理解していただいて、すると今度はこうしたいという改良点が見つかります。相互関係を築きながら双方がレベルアップできる環境は大きな価値があると考えます」(坂井氏)

もちろん導入当初はクラウドにすぐに慣れたわけではない。入カスピードが遅いのではと感じたそう。「その点は事前に PCAさんから聞いてましたが、思ったほど遅くは感じませんでした。中小企業の場合、常に新しいバージョンの経理システムを使える環境ではありません。でもクラウドなら常に新しいバージ

ョンを使えます。総合的に見ればやはり利点が多いというのが、私どもとお客様との一致した意見です」(米満氏)

○クラウドによって顧客との関係をさらに密に

会計事務所に限らずコンサルタント業務の顧問料は、年々低下傾向だ。そんな中だからこそ、クラウドサービスにはある可能性があると坂井氏は語る。「クラウドサービスを導入したことで、会計事務所としては顧問料にあった仕事のパターンが増えたと考えています。時代の流れとして顧問料は低下傾向ですから時間をいかに有効に使うかが問題です。移動にやはり一番時間を使うわけですが、クラウドであればその時間を短縮でき、その分お客様とより密な遣り取りが可能で、また一度当社のクラウドサービスを利用したお客様は、その後も長く当社とお付き合いしていただけます。当社を長期にわたって頼ってくださるお客様が増えるということですから、PCAさんと共にシェアを更に広げていきたいですね」。

「繰り返しになりますが、やはりお客様が求めているのは安心感です。クラウドサービスを導入して改めて感じたのは、お客様は入力した数字を見てもらいただけでなく、自分の行っている会計や税務の処理が正しいのかを気にしておられます。なのでシステムに入力している時点から一緒に見守ってほしいとお考えです。クラウドならそれができます。実際、公益法人様からのお問い合わせでも『そちらはクラウドやってるんですね』と聞かれますよ」(米満氏)

他にも利点はまだある。かつては経理・財務データを出力し、それをファイリングし保管する必要があったが、クラウドサービスによって省スペース化が可能だ。PCA クラウドサービスはソフトの統一だけでなく、科目体系も統一されてお



税理士法人 東京会計グループ
税理士
坂井 欣典 氏



税理士法人 東京会計グループ
税理士
米満 まり 氏



税理士法人 東京会計グループ HP
<http://tokyokaikai.jp/>



資格の学校TAC Wセミナー熊本校
<http://tac-kumamoto.com/>

り、経理担当者以外でも理解しやすい。同社へ新規の問い合わせをしてくる企業は、やはり何らかの改善を必要としていることが多く、同社の提案するクラウド会計を納得して利用している。

今後の課題

○iPad への可能性

時と場所を選ばないクラウドサービスを、さらに便利に扱えるよう iPad の使用もぜひ検討してほしいと坂井氏は語る。「iPad で売上の中身をパッと瞬時に見られたらとても便利なはず。東京と九州の往復が多いので、例えば羽田で月次推移や予算対比などをパソコンを広げずに確認することができるといいですね。出張の多い社長さんでも、出張先で数字が見られると便利なはず。」一方、企業の規模によって求められる数字にも違いがあるそう。順調な経営を行っている企業の場合、予算対比、月次比較などの数字を求められるが、中小企業の場合は今どれだけ現預金があるのかという資金繰りが気になるそう。

○クラウドで顧客の大切な情報を守る

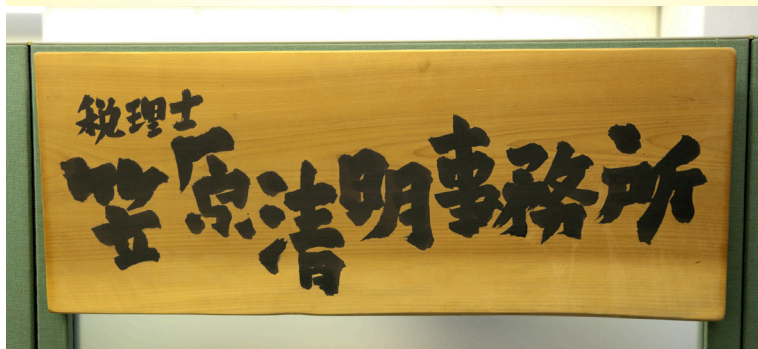
「クラウドサービスは BCP（事業継続計画）にも活用できると考えています。急な災害が発生したとしても企業のデータはクラウド上にあるため、パソコンとインターネット環境があれば直ぐに事業を再開できます」「過去のデータ も含めて、顧客の大切な情報を守れるのがクラウドの魅力です」(坂井氏)

今後の展望

○クラウドによってさらに幅を広げる

最後に今後の展望をお二人に伺った。「私たちは公益法人を中心に信頼を得ています。会計の知識もあり、税務の知識もあり、そして PCA のクラウドサービスにも触れてもらえる。そのような大きなメリットがあるわけですから、ぜひ東京・九州に限らずその近郊にもサービスを広げていきたいです。私たちの仕事は時間イコール報酬の面もあり、時間をとらずにお客様を税務申告にまで導ければ理想です。申告は原則決算後 2 ヶ月と時間が決まっており、自ずと受けられる件数も決まってきます。そこをクラウドを用いることで双方の時間を短縮し、もっと多くのお客様のお力になりたいですね」(米満氏)

「顧問料の低下傾向に対応するための一つの具体策として、人件費の節約があります。私どもは九州にもオフィスを構えており、九州の人件費は東京に比べて 7 割程度といわれています。九州を業務処理センターとして、資格の学校 TAC/W セミナー熊本校と提携して優秀な人材を確保し、かつ業務の効率化を図りながら、お客様へのサービス向上に繋げてゆきたいと考えています」(坂井氏)



BPOプラン導入成功のために、
会計事務所が優先すべきものとは？
「顧客メリット」を最大限に考えた
『PCAクラウド』活用法

税理士笠原清明事務所

数多くの会計事務所の中で、いち早く『PCAクラウド』を導入した税理士笠原清明事務所。現在、約30社の顧問先がクラウドを導入し、迅速な会計処理を実現している。実際に顧客からも高い評価を得ているが、この成功への道のりは決して平坦ではなかった。会計事務所が顧問先へクラウドを勧めるためには、いったい何が鍵になるのか？数多くの書籍を執筆し、その「わかりやすさ」で人気の笠原清明先生に、『PCAクラウド』の顧問先導入について、明快なアドバイスをいただいた。

導入システム

○PCA クラウド BPO プラン (10GB モデル 50CAL) ※1

- ・ PCA 会計 X クラウド ・ PCA 給与 X クラウド
- ・ PCA 商魂 X クラウド ・ PCA 商管 X クラウド
- ・ PCA 公益法人会計 V.12 for SaaS ・ PCA 建設業会計 V.7 for SaaS

※1: 【BPOプラン】会計事務所・社会保険労務士事務所・アウトソーシング向けプラン

導入の狙い

- ・ 規模が拡大する顧問先の事務量を、スムーズかつスピーディーに処理したい。
- ・ 中小企業の顧問先にも、『PCA クラウド』による効率化を勧めたい。

導入効果

- ・ 『PCA クラウド』によってデータを一元化。遠隔地の経理処理も迅速にスムーズに行える。
- ・ 『PCA クラウド BPO プラン』によって低料金でクラウド利用。会計事務所としての付加価値も加えることで、導入先では効率化に成功。

プロフィール

税理士笠原清明事務所

- 所在地：〒160-0022 東京都新宿区新宿 1-6-5 シガラキビル 6F
- 設立年月日：昭和 59 年 6 月 1 日
- 従業員数：5 名
- 主業種：税理士事務所
- 業務内容：税理士業務、PCA クラウドの顧問先への導入コンサルティング
- URL：http://www.maps-keiri.gr.jp/



スタッフの皆さん

「中小企業の経理をわかりやすく」をモットーに、パソコンとパッケージソフトを利用した「街」の会計事務所です。パソコン経理のことなら、財務会計、何でもおまかせください。

※ 2012年10月に、『PCA for SaaS』から『PCAクラウド』へ名称を変更いたしました。



税理士笠原清明事務所
所長
税理士
笠原 清明氏



Map Accounting Service HP (マップ アカウティング サービス)

<http://www.maps-keiri.gr.jp/>

このサイトは、起業を応援する会計事務所の税理士・スタッフが作成しています。勘定科目・仕訳・確定申告など小さな会社の経理と税金の情報が満載です。

導入前の課題と選定のポイント

○複数の支店を持つ企業の経理を、スピーディーに確実に処理したい

昭和59年の開設以来、30年にわたって「中小企業の経理をわかりやすく」をモットーに掲げてきた税理士笠原清明事務所。顧客の中には、本社以外に支店や営業所を持つ企業が少なくない。そのような場合、必ず問題になるのが支店の数字を本社の経理へ取り込むための手間と時間だ。

「A社の場合、20店舗のお店から本社へ出納帳がFAXで送られ、その数字を本社スタッフが再入力していました。しかし規模が大きくなるに連れ、事務量も残業も増える一方です。同様の悩みを多くの顧問先様から相談されていました」

このような事例の解決手段として、自社サーバーを利用したネットワーク化がある。しかし中小企業にとってサーバーの購入費用は高い。そこで「基本的にサーバーが要らない」+「データを一元化でき、無駄な再入力をなくす」、それができるのが『PCAクラウド』だった。同事務所ではPCAがクラウドサービスを開始して間もない2011年に導入したが、もちろん当初は不安や障害も大きかったという。

○なかなか良さを理解されないクラウド

「顧問先のデータをリアルタイムに見ることができる。」「事務所のPCで顧問先の仕訳を訂正することができる。」「というポイントでクラウドの導入を顧問先に提案したが、ことごとく断られた。顧問先からは「おたくは楽になっていいね」「会計事務所のために入れるのだから費用を持つなんてとんでもない」「顧問料を下げられるの？」などと否定的な意見ばかりだった。

確かに多くの顧問先は既に各社の会計ソフトを導入済みなので、操作方法が変わるなど会社側に大きな負担がかかる。

また、もう1つ懸念している点があった。「処理スピードが心配で、当時はかなり気になっていました。スピードを気にした理由は、顧問先様がクラウド導入によってレスポ

ンスがワンテンポでも遅くなることをシビアに見られていたからです。」

○クラウド導入の最初の鍵は、経営トップの判断

経理担当者の立場で見ただけではなかなか見いだせなかったクラウドのメリットであったが、経営者の立場から考えてみれば、その答えは簡単に出た。『PCAクラウド』のメリットはまさに経営者が求めているものだと言葉で語る。

「データを一元化することで二度手間がなくなり、ミスも事務量も人件費も減ります。仮に6つの支店を抱える飲食店の場合、1店の数字の再入力に3時間かかったとすると計18時間の入力時間が発生します。時給2,000円で経理スタッフを雇用した場合は直接人件費だけで36,000円です。特に経理の仕事は波があり、繁忙期のピークに合わせて雇用することが多く経営面を圧迫しますが、これらの人件費も『PCAクラウド』によって抑えられるわけです」

また、本支店の合計売上など、欲しい数字をいつでも確認できる点も経営者の立場からは大きな意味がある。経営者がこういったコスト面やスピード面で『PCAクラウド』の良さを実感すると、やがてその良さは経理の現場にも伝わっていく。実際に、多くの顧問先では約1カ月程度でクラウドやPCAソフトに慣れるそうだ。

「懸念していたレスポンスも、Xシリーズになってからスピードは大きく改善されましたので問題ありませんでした。今までのソフトからPCAソフトに乗り換えることで画面も操作も変わるため、負担を強いられる経理現場での抵抗もありましたが、メリットが上回れば理解してもらえることがわかりました。」

導入後の効果

○最優先すべき点は、会計事務所ではなく顧問先様のメリット

経営トップに『PCAクラウド』の良さを理解していただく上で、絶対に忘れてはならないことがあると言葉で語る。それは「あく

までも顧問先様のメリットを最優先する」ことだ。

「クラウドの利便性を、顧問先本社⇄会計事務所の関係だけで考えると、クラウドの真の良さは伝わりません。しかし顧問先本社⇄支店、あるいは本社⇄工場など、顧問先様の立場でコストをいかに抑えてスピードアップを図り、スムーズに経理処理を行えるかを考えれば、おのずとクラウドの良さはご理解いただけます。その結果、当事務所では『PCAクラウド』を途中でやめられた企業様はいらっしゃいません。皆さん、継続してお使いになられています」

○企業の特徴に応じて、クラウドがもたらす効果も多様

このように顧問先のメリットを最優先に考え導入された『PCAクラウド』によって、次のような成功例を列举していただいた。

B社の場合、社長夫人が経理を担当。家と会社のPCでUSBメモリを持ち運び処理を行っていたが、2台のPCを使うことでバックアップ・リカバリの手間もかかり、データが混ざって、最新の正確なデータがわからなくなってしまったことがあった。しかしクラウド導入によって、現在は最新データを確実に一元管理できている。

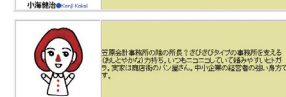
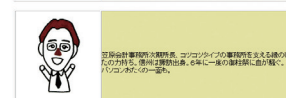
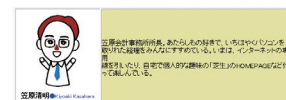
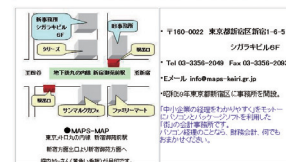
C社の場合、多くの営業社員が日本各地に出張しセールスを行っているが、旅費の精算はExcel®で作成し本社へ送信していた。本社経理スタッフはそのデータを会計ソフトに再入力していたが、会社規模が拡大し経理スタッフの負担はかなり重くなっていたという。そこで営業社員のノートPCに『PCA会計X クラウド』を導入。営業社員は自分の精算にかかる帳簿や勘定科目に直接入力でき、本社経理スタッフはその確認だけで済むようになった。営業社員からもExcel®データ作成の手間が省け、自動的に正しい数字が計算されるため便利だと好評だ。

D社では金融機関に急ぎで財務諸表を提出しなければならない場合でも、クラウドから印刷すればよいだけなので、すぐに準備ができることや、クラウド上のデータを会計事務所メンバーに確認してもらうことで、安心感が得られ高い評価をいただいている。

ほかにも『PCAクラウド』ならではのメリットはたくさんあると笠原氏は語る。例えば大きな会社の場合、経理部門が数字をつい抱え込んでしまう傾向がある。しかしクラウドならば、会計事務所側から数字を確認できるため、場合によっては不正防止の大きな歯止めにもなる。

会計事務所の場合、『PCA会計』や『PCA公

MAPSのスタッフのいる 笠原会計事務所



笠原会計事務所 HP
<http://www.maps-keiri.gr.jp>
[/kasahara-kaikei](http://kasahara-kaikei)
[/kasahara-kaikei.htm](http://kasahara-kaikei.htm)

システム概況図

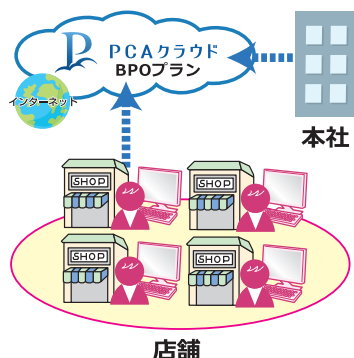
税理士笠原清明事務所

- ・会計事務所のメリットではなく、顧問先のメリット・効率化を最優先に。
- ・ID設定などの付加価値も提供する。



A社

20店舗の支店からの売上データを本社でリアルタイムに把握。



B社

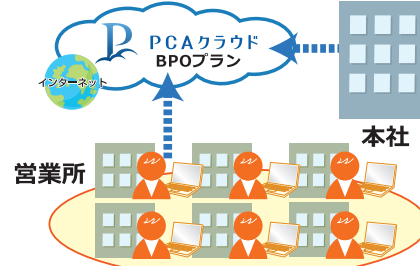
会社から入力しても、自宅から入力しても、データを確実に一元管理。



一元管理されたデータはデータセンターに保存。上書き忘れによるデータの不一致も防げる。

C社

各営業社員のノートPCに『PCAクラウド』と『PCA会計X』を導入。経費は本社データに反映計算される。



- ・全国各地の営業社員が、交通費をノートPCで入力。
- ・営業社員の入力した交通費は、本社のデータに即反映されるため、本社での再入力は不要。



事務所内の様子

PCAクラウド スマートデバイスオプション

- 商魂Xモジュール
- 会計Xモジュール

iPad/iPhoneで、新しい 基幹業務スタイルを。

『PCAクラウド』上に蓄積された
基幹業務データを、「いつでも」
「どこでも」「簡単に」ご活用いた
できます。



AppStore より無償で ダウンロードいただけます。

iOS 専用アプリなので起動が早く、操
作が直観的に行えます。また、ウイル
ス感染などの影響もありません。SSL
暗号化通信により、VPN 環境や利用
時の接続の手間を必要とせず、VPN
接続と同等の安全性を確保します。

PCA クラウド契約ユーザーは無償で
利用可能です。同時接続ライセンスで
集計時のみログオンするため、無駄な
ライセンス消費を抑えます。要望の多
い機能から順次機能を追加予定。無
償でアップデートが可能です。

益法人会計』などをクラウドで利用するケ
ースが多いが、税理士笠原清明事務所では、
『PCA商魂』『PCA商管』も積極的にクラウド
利用を勧めている。同事務所が販売管理にも
詳しいという背景もあるが、『PCA商魂』
『PCA商管』が販売管理ソフトとして非常に
優れているからだと言原氏は評価している
からだ。

○最後の重要な鍵は「会計事務所と しての付加価値」

「経営トップの賢明な判断」「顧問先様のメ
リットを何よりも最優先」に加えて、もう一
つ、会計事務所が顧問先へ『PCAクラウド』導
入を勧める際の鍵になるのが、「会計事務所
としての付加価値」だという。その一例が「ID
設定（領域ユーザー、処理レベルの設定）」だ。

「クラウドでデータ共有できることは便利
ですが、支店スタッフが本社の重要な経理デ
ータを見ることになっては困ります。そこで
顧問先様のニーズや業種の特徴、会社規模な
ど様々な点から、最も適切なID設定を行いま
す。そして当事務所内でもダブルチェックを
行い、実際に画面に入ってこのIDからは何と
何が入力でき、何を閲覧できないかを再確認
しています」

企業の経理担当者から「BPOプランの方が
よいのか、それとも当社で直接『PCAクラウド』
を契約した方がよいのか？」という質問
を受けることもあるという。確かに台数によ
っては、直接企業が『PCAクラウド』を契約
した方が安い場合もある。しかしBPOプランで
は、このような会計事務所ならではの視点に
よるID設定、また同事務所では入力説明会等
も開催しており、こういったノウハウを加え
ることで顧問先にメリットを与えられるの
だと笠原氏は語る。

実際に『PCAクラウド』を途中でやめた企
業がなく、毎月の使用料を高いと言う企業も
ない事実は、これらの付加価値がその要因だ
と考えられるだろう。

今後の展望と課題

○便利なツール有りきではなく、解決 策の一つとしての『PCAクラウド』

笠原氏からは、今後のPCAのクラウドサー
ビスに対する様々なアイデアや要望もいた
だいた。例えば、新しくBPOプランを始める
ことにした会計事務所にとって、不明点や疑
問点は山のようにある。そこですでにBPOプ
ランを開始している会計事務所が導入支援
を行うこともできるだろう。

また、スマートデバイスをより多くの顧問
先様に利用していただくために、業種に応じ
た『PCAクラウド スマートデバイスオプシ
ョン』の機能があるとさらに便利に入力でき
るとも話す。そして「わかりやすさ」というキ
ーワードは、常に意識してほしいと言原氏は
指摘する。「正確さにこだわるあまり、技術者
の言葉でマニュアルを作成しても、確かに表
記のミスはありませんが一般の人には通じ
ません。なるべく平易な言葉で、目的や疑問
からたどっていけるようなマニュアル作り
も期待しています」

『PCAクラウド』を便利なツールとしてと
らえる以前に、顧客へのコンサルティングを
重要視し、顧客の悩みや問題をじっくり聴き
取り、その解決策の一つとして『PCAクラウド』
があると考えている税理士笠原清明事務
所。その姿勢がBPOプラン成功の大きな鍵に
なるのだろう。

ピー・シー・エー株式会社

pca.jp

Since 1980.8.1

本社 〒102-8171 東京都千代田区富士見1-2-21 PCAビル TEL.03(5211)2700 FAX.03(5211)2740

※Access®は Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標です。

※Excel®は Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標です。

※会社名と製品名は、それぞれ各社の登録商標または商標です。

※記載内容は取材当時の情報を元に作成しております。現在とは内容が異なる場合がございますのでご了承ください。

2014.10.01



タイムラグによる会計データの不一致をクラウドで解消。大規模病院の会計業務を安全・確実に効率化

株式会社 かさい会計 税理士法人 かさい会計

株式会社かさい会計／税理士法人かさい会計は、相続・事業継承のコンサルティング業務を中心に、年間500件以上の申告業務を行っている。顧客には医療機関も多く、大規模な病床数を誇る医療機関からの依頼も多いのが特徴だ。現在、これらの医療機関と『PCA クラウド』を利用し、『PCA 医療法人会計』で会計業務の支援を行っている。「安全性・継続性・確実性」の点で、クラウド利用のメリットは大きいと語る同社。税理士事務所にとっての会計ソフト選定のポイントなど、非常に有益でわかりやすい助言が豊富だ。

導入システム

○PCA クラウド BPO プラン (2GB モデル 10CAL) ※1

・PCA 医療法人会計 for SaaS ・PCA 会計 9V.2R7 for SaaS

※1:【BPOプラン】会計事務所・社会保険労務士事務所・アウトソーシング向けプラン

導入の狙い

- ・顧客先との会計データの不一致を解消したい。
- ・会計データの紛失や誤作動による消去を防ぎたい。
- ・物理的な移動時間を減らし、より質の高いコンサルティング業務を行いたい。
- ・経理や会計に不慣れな人でも入力しやすいソフトが欲しい。

導入効果

- ・クラウドで一元管理することでデータの不一致を解消。
- ・クラウドのため外付けのストレージは基本的に不要。紛失のリスクを解消。
- ・クラウド利用のため物理的なデータのやり取りは不要で、すばやいレスポンスも可能。
- ・『PCA 会計』は操作性が高く、会計に不慣れな人にもわかりやすい。

プロフィール

株式会社 かさい会計
税理士法人 かさい会計

□代表：笠井 良一

□所在地：〒810-0001

福岡県中央区天神 2 丁目 8-49
ヒューリック福岡ビル 7 階

□設立：2013 年 6 月

□社員数：26 名(グループ総数 41 名)

□業務内容：税理士業務全般

□URL：<http://www.kasai-grp.co.jp/>

私たちは、
お客様の「大切な財産」を取り巻く
税務問題を解決するプロ集団です。

《お客様の信頼に値する業務を提供するために》

株式会社かさい会計／税理士法人かさい会計は、個人・法人あわせて年間 500 件を超える申告を行なっています。福岡市内及び福岡県下を中心に、相続税申告から資産家個人の確定申告、医療法人から大企業の法人税申告まで多種多様なご依頼をいただいております。これはひとえに、多くの資産家からご信頼をいただいている結果であります。

本格的な相続・事業承継サービスが求められる時代になった今、本当の意味での「相続」のあり方に真っ向から立ち向かいます。医療機関においてはその選別・淘汰が進む中で「生き残る医療機関づくり」と、医療税務をはじめ医療機関特有の問題に対する包括的なサポートのご提供を行います。

※ 2012年 10月に、『PCA for SaaS』から『PCAクラウド』へ名称を変更いたしました。



株式会社 かさい会計
税理士法人 かさい会計
公認会計士・税理士
岡本 利和 氏



社内風景

導入前の運用と課題

○タイムラグによる会計データの不一致を解消したい

『PCA クラウド』の導入によって、業務に効率化のみならず「確実性」が加わったと語る株式会社かさい会計／税理士法人かさい会計。現在は、『PCA 医療法人会計』を、顧問先である医療機関にライセンス供与し、クラウドで利用している。この環境を実現させた背景には、同社公認会計士・税理士である岡本利和氏の尽力が大きい。

以前、同社では顧客ごとに使用している会計ソフトが違い、それぞれスタンドアロン型で稼働していた。そのためUSB メモリなどに保存された会計データを持ち帰って処理しなければならず、当然、USB メモリの紛失や、ミスによるデータ消去の危険性があった。そこでこれらのリスクを防ぐために検討されたのが、ネットワーク環境下でのデータ管理だった。

「以前、私が所属していた大手の監査法人では、常にサーバーに顧客データが一元管理されていました。どこの税理士法人でもよくある問題として、顧問先様が持っているデータと、税理士事務所が持っているデータの不一致があります。物理的な移動を伴うデータ管理の場合、事務所側でデータを開いたときには、顧問先様で仕訳そのものが変わっていることもあります。このようなやり取りが重なると、どれが最新のデータかもわからなくなります。このタイムラグの問題を何とか解決したかったのです」(岡本氏)

そこでクラウド型の会計ソフトを調べたところ、『PCA 会計』が岡本氏のイ

メージしている内容と一番合致したそう。新しくサーバーを設置する必要がなく、コスト面でも導入しやすい。USB メモリを紛失するなどのセキュリティの心配も不要であり、顧問先とのタイムラグも発生しない。

「当初、気になったのはサーバーダウンの問題でしたが、PCA に問い合わせたところ信頼性の高い稼働率であると返事をもらいました。効率性・安全性、そして確実性という点も我々の業務では厳しく問われますから、『PCA クラウド』におけるこれらの点も評価し、導入を決めました」(岡本氏)

導入後のメリット

○シンプルな流れで理解し操作できる PCA 会計ソフト

現在、同社では約 20 カ所の医療機関が『PCA クラウド』による『PCA 医療法人会計』を導入している。医療機関の規模は様々で、スタッフが数名の個人クリニックもあれば、たくさんの病床数を持つ大規模病院も多い。大規模病院の場合、スタッフ数は数百名を超え、一つの会社のような規模になるが、概ね PCA のクラウドや会計ソフトへの評価は高い。とりわけソフトの操作性の高さが好評だ。

「医療機関は非常にお忙しく、会計ソフトのマニュアルを読む時間もなかなか取れません。しかし『PCA 医療法人会計』は、わかりやすく作られており、会計に不慣れな方でも、このボタンをクリックすればこういう結果が出るという、非常にシンプルな流れで理解し、操作できます。実際に会計入力をされているご担当者様には、クラウドの利便

性よりも、むしろ PCA の会計ソフトの使いやすさの方がメリットは大きいようです」(岡本氏)

では、実際に監査する立場として見た場合、PCA のクラウドや会計ソフトにはどのような特徴があるのだろうか？

「主に仕訳帳・月次推移表・比較財務諸表などを使っていますが、顧問先様の印象と同じく、PCA の会計ソフトはシンプルで、自分の見たい数字をダイレクトに簡単に出せます。例えばこの手順を踏まないとこの数字には辿り着けないという手間やわかりにくさがなく、基本ソフトの中で、欲しい帳票などはすべて揃い、特に何らかのカスタマイズを加える必要もありません」(岡本氏)

○クラウド利用によって、交通費や移動時間を 3 分の 1 まで削減

クラウド導入にあたっては、まったく心配がなかったわけではないようだ。特に「処理のスピード」「クラウドの利用時間」「インターネット環境に依存する不安」「緊急時の対応」が気掛かりだったという。

「処理のスピード」については、スタンドアロン時に比べワンテンポ遅くなった印象を持つスタッフもいるそうだが、ストレスを感じるほどではないようだ。「クラウドの利用時間」については、医療機関での利用時間と合致しているため問題はない。「インターネット環境に依存する不安」については、医療機関の場合、電子カルテの普及などかなり安定した回線を引くなど、インターネット環境に恵まれている場合が多く、この点もスムーズに利用できている。「緊急時の対応」については、『PCA クラウド』では緊急時対応のスタンドアロン版を標準添付しており、それぞれの顧問先でもインストールしている。同社でも定期的に全データのバックアップはとっており、万が一に備えた二重三重の対応策を講じている。

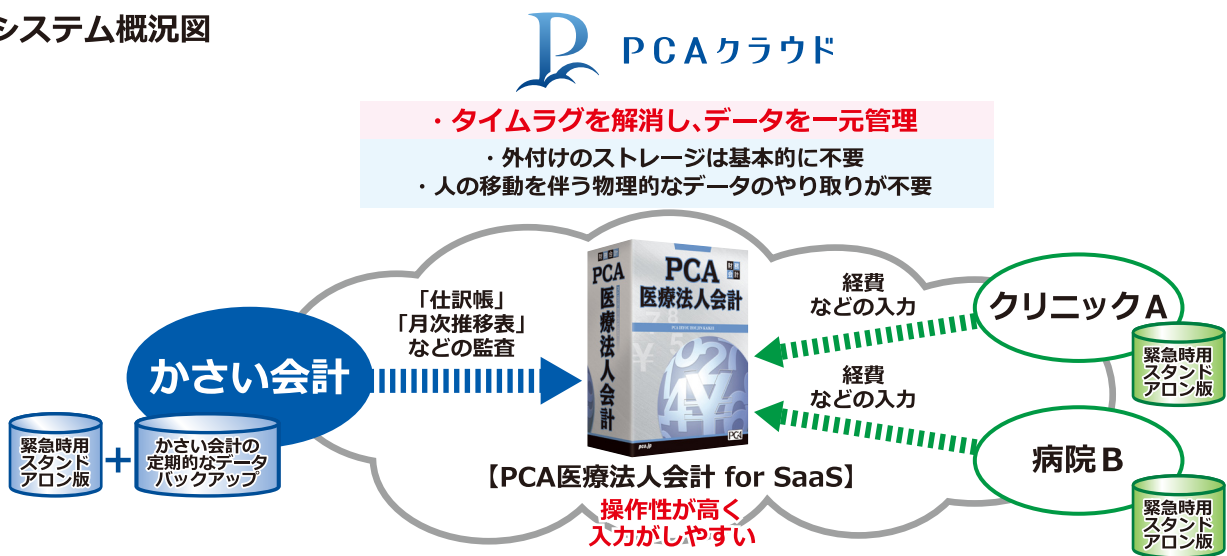
クラウドについて、地方都市の企業や税理士事務所などの方が、そのメリットははるかに大きいはずだと岡本氏は語る。

「東京の都心なら半径 5km 以内に多くの企業があり、物理的なデータのやり取りでもなんとかなるでしょう。し



株式会社 かさい会計
税理士法人 かさい会計
<http://www.kasai-grp.co.jp/>

システム概況図





株式会社 かさい会計 税理士法人 かさい会計 サービス内容

【相続・事業承継】

福岡の税理士事務所「かさい会計」は、福岡における相続・事業承継のトップランナーとして、頂きを目指しています。「資産活用」「税金対策」「相続対策」「事業承継」「M & A」などの問題に向き合い、打破する提案力と実行力で、結果を残すソリューションをご提供できる税理士事務所であり続けます。

【医療機関・事業承継】

「医療機関は事業承継で潰れる」と言われるほど、事業承継は非常に大きな問題です。私たちかさい会計は、医療機関承継対策を得意とするだけでなく、医療経営のサポートから医師個人の資産管理まで、豊富な知識で支援します。

【社会福祉法人・公益法人向けサービス】

組織や建物の建て替えを含め「運用から経営へ移行する時代」になりつつあります。私たちは九州一円に新会計基準への対応と、適正な税務申告を提供しております。また公益法人につきましても、新制度移行後はお任せ下さい。

【無料セミナー(定員制)】

福岡市中央区「アクロス福岡」にて、かさい会計主催の「無料セミナー」を定期的で開催しています。定員制のセミナーは、相続、医療機関経営、事業承継など、資産家ならびに医療介護業界の抱える問題の「今」にスポット当てたテーマを取り上げます。セミナー特典として「個別無料相談・財産評価」を受付けております。まずはお気軽にお問い合わせ下さい。

かし弊社は福岡の市外や県外にも多くの顧問先様がおります。クラウドを導入したことで、医業部の交通費や移動時間は3分の1程度に軽減したのではないのでしょうか。顧問先様へのレスポンスも以前より速くなり、我々だけでなくお客様にとってのストレスも軽減しています」(岡本氏)

今後の課題と展望

○目に見えないコストも含めた トータルコストでソフトを選定

PCAのクラウドや会計ソフトの中身については概ね高い評価が与えられているが、改善してほしい点として『PCA法人税』の更なる努力が指摘されている。

「会計ソフトの中身は十分満足できますし、サポートの対応も良いと思います。しかし法人税についてはソフトの中身もサポートの内容もまだまだ改善すべき点が多いように思います。PCAの会計ソフトは時代が望んでいる要素を上手に取り込んでいると私自身は評価しておりますので、法人税でも同様のレベルを期待しています」(岡本氏)

また、『PCA医療法人会計』については、「医療機関の場合、決算には独自のルールがあり、『PCA会計9V.2R7』ではある程度手入力での処理が必要になる。しかし医療法人専用の『PCA医療法人会計』なら提出用決算届を手作業での組み替え作業なしに簡単に作成でき

る。今後も顧問先への導入をさらに拡げていきたいですね」(岡本氏)

公認会計士事務所や税理士法人にとって、会計ソフトの選定は業務の流れを大きく左右する要となる。効率化に成功した同社の事例から、何を基準に会計ソフトを選定すべきかを助言いただいた。

「一言でいうならトータルコストで選ぶべきでしょう。使い勝手が悪い、データが重いのであえて分けている、USBメモリをたくさん持っている…これらは無駄の証しです。PCAソフトはこのような目に見えないコストがほとんどかかりません。自前の会計ソフトを使う税理士法人もありますが、“餅は餅屋”という言葉があるように、会計ソフトは会計ソフトの会社に任せるべきでしょう。大事なのは、管理・運用しやすく、顧問先様からの信頼を得られる環境にすることで、そのためのトータルコストを考えたときに、やはりPCAにはアドバンテージがあると思います」(岡本氏)

効率化によって生まれた時間は、今以上に質の高い顧問先へのサービスに活かしたいそう。年間500件以上の申告業務を手掛け、顧問先には資産家や大きな病院経営者も多い同社。今年6月から法人化し、よりフィールドを拡げたコンサルティング業務を行うためにも、志を持つ人材を集めているところだ。『PCAクラウド』『PCA医療法人会計』『PCA会計』に求められる期待もいっそう高まっている。



複雑な建設業会計を『PCA クラウド』に集約。
工事別・取引先別など独自の工事帳票も
作成でき、顧問先の自計化も促進

北林公認会計士事務所

IT コーディネーターや情報処理技術者が在籍し、企業の海外展開の支援も数多く行っている北林公認会計士事務所。秋田県以外からも多くの企業が同事務所にコンサルティング業務を依頼しており、その業種也多岐にわたっている。現在、同事務所ではクラウドを利用した『PCA 建設業会計 V.7』も導入しており、「会計に詳しくない人でも使いやすい」という印象を持っているそうだ。様々な会計ソフトを使用し、その特性も熟知している同事務所。その使用感や評価には、実務家としての大きな説得力がある。

導入システム

○PCA クラウド BPO プラン (20CAL) ※1

- ・ PCA 公益法人会計 V.12 for SaaS ・ PCA 建設業会計 V.7 for SaaS
- ・ PCA 会計 9V.2R7 for SaaS

○PCA 減価償却 V.3

※1:【BPOプラン】会計事務所・社会保険労務士事務所・アウトソーシング向けプラン

導入の狙い

- ・ 顧問先の自計化の意識を高めたい。
- ・ 建設業会計に不慣れな担当者でも、使いやすい会計ソフトが欲しい。
- ・ 監査する立場から見て便利な建設業会計にしたい。
- ・ 東北エリアや首都圏に点在する顧問先の業務を迅速化したい。

導入効果

- ・ 『PCA 建設業会計 V.7』の導入によって、顧問先での自計化を促進。
- ・ 『PCA 建設業会計 V.7』では自動振替の機能が充実し、建設業会計に不慣れな人でも処理しやすい。
- ・ 独自の集計結果資料を作成でき、工事関連帳票フォームも自由に設計できる。
- ・ 『PCA クラウド』によって、遠隔地の顧問先の業務もリアルタイムで一元管理。

プロフィール

北林公認会計士事務所

□所在地：〒010-0951 秋田県秋田市山王 2 丁目 6-25

□職員数：9 名

□主な人材：

- 1.IT コーディネーター (経営工学専攻後、都市銀行を経て当事務所へ参加)
2. 第 2 種情報処理技術者 (電子工学専攻後、製造業を経て当事務所へ参加)
3. 簿記 1 級 (経理専門学校を経て当事務所に参加)
4. 上場企業取締役を経て当事務所の顧問 (東南アジア、中国へ広く人脈を有する)
5. 税理士試験一科目合格者
6. ジェトロ認定貿易アドバイザー

□事務所 URL : <http://www.tkmanagement.co.jp/>

《ご挨拶》

会計ビッグバンが私共に求める要件の実相を『日本社会の国際化が深まる中、よりレベルの高い仕事を、より迅速に処理すること』にとらえ、微力を尽くしております。

会計事務所の伝統的なジョブと言える確定申告書の作成から、海外子会社の管理、調査など皆様のご支援の下、取り扱ってまいりました。地方では、建設業・温泉旅館業の再生支援が課題となっており、県内各地に点在する取引先に対して、クラウドの効果は高いものがあります。

北林孝雄 (公認会計士)

※ 2012年 10月に、『PCA for SaaS』から『PCAクラウド』へ名称を変更いたしました。



北林公認会計士事務所
代表 公認会計士
北林 孝雄 氏



北林公認会計士事務所
PCA認定インストラクター
佐々木 重之 氏

導入の決め手

○会計士事務所にとって、監査しやすいソフト

現在、北林公認会計士事務所では、『PCA クラウド』を利用して『PCA 会計 9V.2R7』『PCA 公益法人会計 V.12』『PCA 建設業会計 V.7』のBPOプランを導入しており、顧問先とライセンスを共有することで、遠隔地の顧問先の業務も一元管理している。企業の税務申告業務にとどまらず、海外展開の支援業務も数多く手掛けている同事務所には、秋田県以外の企業からの依頼も多く、距離を問わずリアルタイムで顧問先と情報共有できる『PCA クラウド』のメリットは非常に大きいと語る。

PCAの会計ソフト全般について、同事務所スタッフの佐々木重之氏（PCA認定インストラクター）は次のように評価している。

「PCA ソフトは会計士が作ったソフトであり、会計事務所として見た場合に、監査しやすいソフトといえるでしょう。運用履歴が残ることで、万が一の不正を防げるだけではありません。税制が頻繁に変わる今、多くの会計事務所の本音としては、所員の個人の力量だけで対応するのは難しい時代だととらえています。そのような部分でPCA ソフトには総合的に会計業務の効率を高める力があり、トータルな基準値が高いと思います」（佐々木氏）

導入後のメリット

○未成・完成工事の振替入力がスムーズに

同事務所がクラウドを利用して、『PCA 建設業会計 V.7』を本格稼働さ

せたのは約 2 年前。建設業の会計については、一般会計のソフトを応用している企業も多い。同事務所でも顧問先の状況に応じてソフトの使い分けを行っており、現在は複数の建設会社が『PCA 建設業会計 V.7』を導入している。

佐々木氏の印象では、『PCA 建設業会計 V.7』が適している企業としては、例えば、外注費や材料費の処理が複雑な企業。あるいは実際に入力する人が経理に詳しくない場合などに、便利さが実感できると考えているようだ。

「特に未成工事から完成工事への振替の部分は、建設業会計に慣れていないと難しい場合がありますが、『PCA 建設業会計 V.7』では自動振替の機能があり、経理に不慣れな方でも、非常に便利に使えます」（佐々木氏）

『PCA 建設業会計 V.7』の未成工事振替入力では、決算時に未成工事分のみを完成工事から未成工事へ振替えられ、振替金額も自動集計される。翌期の未成工事から完成工事への振替も自動で処理でき、決算時の振替伝票の起票がスムーズに行える。完成工事振替入力では工事完成時の未成から完成への振替入力ができ、1 件の工事でも複数の完成振替が可能だ。

「当事務所がお手伝いさせていただいている建設会社様は、工事台帳を非常に正確で丁寧に作っておられるため、未成・完成工事の仕訳がしやすく、後は PCA ソフトの振替機能を使えば問題なくパーフェクトに処理できます。完璧な工事台帳という正解があるので、その後の突合せ、つまり答え合わせも完璧にできます。しかし、建設会社様の中には、工事台帳を正確に付けることが難しい会社様も多いと思います。おそらくそのような会社様が建設業会計ソフトの導入を

希望されるのだろうと推測しますが、そのような会社であれば、この自動振替の機能が、より便利に実感できるのではないのでしょうか？」(佐々木氏)

○独自の集計結果資料を作成でき、未収金も見つけやすい

会計事務所としての立場からは、「帳票工房」の機能が非常に便利だと佐々木氏は語る。「帳票工房」とは工事関連帳票を独自に設計・作成できる機能で、「工事別勘定科目残高一覧表」や「工事別未成原価残高一覧表」、「工事別取引先残高一覧表」など多くの集計結果資料を作成できる。同事務所でも「工事別勘定科目残高一覧表」や「工事別補助科目残高一覧表」はよく出力され利用されている。

「完成しているのに未成工事として残っているものがあると、損益計算書の数字まで違ってきます。それを防ぐためにも、これらの帳票類は頻繁に利用しています。常に工事一覧表は出力

しており、完成工事の合計額が、損益計算書の完成工事高や材料費、外注費、その他経費などと合っているかをチェックします。一方で未成工事の合計額が貸借対照表の未成工事支出金と合っているかをチェックします。これらのチェック作業が会計事務所の基本的な業務だと考えています。なお、工事別勘定科目一覧表などは、未収金を確認するにも非常に便利で、経理のご担当者様もここを見る癖を付けると、回収できていないものをいち早く見つけることができます。なお、『PCA 建設業会計 V.7』は経営事項審査や分析系の機能も豊富ですが、当事務所では経営分析を専門に行う担当者がおり、現在は特に使用していません。しかし、顧問先の会社様の視点に立つと、この機能は価値があると思います。自分の会社に何がどれだけ足りないかがわかるわけですから」(佐々木氏)



北林公認会計士事務所
近藤 美紀 氏

システム構成図

【北林公認会計士事務所】

貸借対照表 or 損益計算書

帳票工房で工事関連帳票フォームを自由に設計

工事別勘定科目残高一覧表 etc

- クラウドによって顧問先の建設会社の会計データを北林公認会計士事務所でも、リアルタイムで管理
- 「工事別勘定科目残高一覧表」などの独自帳票に会計データを反映
- 「貸借対照表」あるいは「損益計算書」と照合

【建設会社 A】

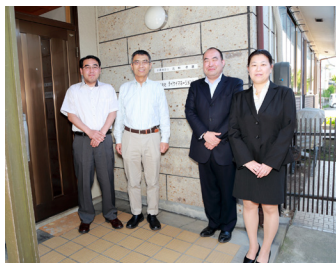
【建設会社 B】

振替伝票入力

未成工事振替入力

完成工事振替入力

自動振替



事務所入口にて



北林公認会計士事務所 HP
<http://www.tkmanagement.co.jp/>

今後の展望と課題

○地方の中小企業目線でのソフト作りに期待したい

『PCA 建設業会計 V.7』について、「その会社が副業などを行っていないければ、猛烈にわかりやすい建設業会計ソフト」と評価する佐々木氏だが、もう少しローカルな中小企業よりの目線も加えてほしいと語る。

「地方の中小企業では個別注記表をよく使うため、この機能はぜひ欲しいですね」(佐々木氏)

同事務所スタッフの近藤美紀氏も、建設業会計の帳票類の出力についてはまだまだ工夫の余地があると指摘する。

「例えば工事収支管理表は、PC 画面では全ての工事が表示されてしまい、未成工事だけを表示できないため、その都度印刷しなければ突合作業ができないのが不便ですね。決算書も報告式だけでなく勘定式でも出力ができれば、さらに便利になると思います」(近藤氏)

○顧問先の自計化の意識の高まり

『PCA 建設業会計 V.7』を導入したことで、顧問先の自計化の意識が高まった点は大いに評価したいと両氏は語る。当初は工事台帳を正確に保管していなかったある企業が、『PCA 建設業会計 V.7』を介した同事務所の指導によって、自力で月次の損益計算書を作れるようになり、一つの工事に対して売上を立てられるまでになったそ

うだ。

同事務所の方針の一つとして「帳簿はお客様の物。我々はそれを監査するのみ」という考えがある。その上で、質の高いコンサルティング業務を提供しているわけだが、同時に、顧問先で毎日会計を入力している経理担当者の気持ちにも配慮している。

「迅速な予実管理のために、月次決算を遅くとも翌月 10 日までに、できれば 5 日までに見せてあげたい。その為に我々の関わりはクラウドによって情報をリアルタイムに修正、共有しています。」(佐々木氏)

現在、同事務所では PCA 以外の多くの会計ソフトも使用されており、それらのパッケージソフトを使う土台として、PCA ソフトで培ったナレッジが役立っていると、同事務所代表の公認会計士 北林孝雄氏は語る。

「私共はただ税務申告を行うだけでなく、その先にある金融機関との折衝や海外展開の支援などを見据えた業務が、本来の仕事だと考えています。今後も PCA の会計ソフトを利用しつつ、迅速に、先を見据えたコンサルティング業務を提供してまいります」(北林氏)



ONE STOP
SOLUTION
COMPANY



『PCA クラウド』+コンサルティングで、
経営者の右腕となる経理業務改善サービスを提案。
顧客満足度の向上を実現

税理士法人 さくら税務

顧問契約数 2,500 社を誇る「税理士法人 さくら税務」は、関西エリアにある新規顧問先からの業務改善ニーズに対して、『PCA クラウド』を活用し、みごと「人件費の削減」、「業務の一般化」、「業務プロセスの簡略化」に成功した。埼玉を拠点としながら遠地の顧客に関与するためのビジネスモデルの秘訣を伺った。

導入システム

○PCA クラウド BPO プラン (4GB モデル 20CAL) ※

- ・ PCA 会計 X クラウド ・ PCA 商管 X クラウド
- ・ PCA 会計 9V.2R7 for SaaS

※【BPOプラン】会計事務所・社会保険労務士事務所・アウトソーシング向けプラン

導入の狙い

- ・ 特定の部門長しか処理が行えなかった。
- ・ 月次決算に、締日から 7 日以上必要であった。
- ・ システム上のボトルネック工程があり、業務負荷がかかっていた。

導入効果

- ・ 中途採用の社員 1 人で従来業務をこなせるようになった。
- ・ 7 日以上かかっていた処理が 1 日に短縮できた。
- ・ 『PCA クラウド』をベースに業務の見直しを行うことで、業務負荷の解消ができた。

プロフィール

税理士法人 さくら税務

- 所在地：
(武蔵浦和オフィス) 〒336-0021 埼玉県さいたま市南区別所 5-15-2
(大阪オフィス) 〒564-0063 大阪府吹田市江坂 1-23-19 米澤ビル第 5 江坂 401 号室
(立川オフィス) 〒190-0012 東京都立川市曙町 2-34-6 コクーンビル 601
- 従業員数：100 名
- 代表：井上一生（税理士・行政書士）
- 創業：昭和 63 年 9 月
- 資本金：110,000 円
- 事業内容：税理士業
- 企業 URL：<http://sakura-zm.net/>

顧問契約数 2,500 件以上。
この実績が信頼の証です。



起業・会社設立、節税、資金繰り等、
我々が全力でサポートします！



スタッフの皆様

私達が全力で、
皆様をサポートいたします。

※ 2012年 10月に、『PCA for SaaS』から『PCAクラウド』へ名称を変更いたしました。



税理士法人 さくら税務
一般会計第3・資産税グループ
マネージャー
安井 崇 氏

【サービス・ご相談案内】

- 会社設立
- 税理士のお探し
- コンビニ経営
- 相続相談
- 確定申告
- お電話でのお問い合わせ

<お問い合わせ専用ダイヤル>

- ・ 無料相談／全国対応
- ・ フリーダイヤル 0120-701-510
- ・ 営業時間：土日祝日除く
- ・ AM9:00 ～ PM6:00

導入前の運用と課題

起業・会社設立・節税・資金繰り等の支援を全力でサポートする税理士法人さくら税務は、関西地区を中心に活動するアパレル会社からの新規の依頼に、どのような回答ができるかを模索していた。

依頼のあった企業は、ホールディングス形式をとる老舗のアパレルメーカーだった。メインのセグメントはSPA(speciality store retailer of private label apparel)で、製造・卸・小売と一貫した製造小売業を行っており、主セグメントとは別にレンタル・クリーニングといった多角化による別事業を展開していた。

そのため会計上の部門管理は複雑で、本部集中の経理処理を行っており、月次決算を行うのに、締日より1週間以上の日数が必要だった。さらに経営管理資料の作成にも時間がかかっていた。

また、債権債務管理においては販売管理システムと会計システムの両システムで重複管理を行っていた。両システムに各得意先・仕入先単位で明細を入力し、その明細単位の消込を行っていたので、二重入力が発生していた。

こういった問題点を見直すことで月次決算の早期化ができないかと、さくら税務へ相談した。

導入検討のきっかけ

このアパレル企業の相談を受けたのは、さくら税務 一般会計第3・資産税グループのマネージャ 安井

崇氏。主に関東を近辺に法人・個人の顧問先を50件以上抱えている。業務改善プロジェクトの提案は可能だが、継続的な関与となると関西への移動の費用や時間をどうクリアできるかが問題であった。

幸いこの企業は自計化を行っており、経営管理レベルも高かったため、『PCAクラウド』を導入し、自社で入力してもらった結果をチェックするだけであれば、離れている場所でも時間に関係なく確認できるのではないかと考えた。

稼働までのスケジュール

『PCAクラウド』の稼働は、非常にスムーズに立ち上げることができた。この企業を訪問する前に「基本情報の登録」や「科目設定」「残高登録」を行い、そのデータを企業側でリカバリ処理をした。企業側は、最新の組織を登録するだけで運用を開始することができたので、操作指導を含めても、2週間程度で本稼働を迎えることができた。

また、従業員別の経費管理を行うため、「従業員」を最下層の「組織」として登録した。「部門別一覧表」などで従業員別の経費管理の確認ができ、企業側からも非常に好評な管理帳票となった。

導入後の効果

導入前の問題点であった二重入力は、今回の業務改善により、販売管理上の明細残高データを正とし、会計側では明細単位の管理を取り

やめ、銀行からの入出金データを会計システムに取り込むことで、仕訳入力を行わないという業務フローにした。

また、企業側の拠点間やさくら税務側でも会計データが見られるような仕組みにするため、現状使用している会計専門メーカーの財務会計システムからクラウドサービスに切り替えていただいた。

『PCAクラウド』は同時接続ライセンス方式になっており、普段利用度の低い会計事務所が利用するにあたって、コスト的な負担が非常に低いサービスであった。会計業務とITの適用範囲の見直しによる効率化を行うことによって、従来、月次決算時に1週間以上かかっていた入力業務が、1日で終わるようになった。

2年目からはExcel®で作成した予算表をベースに、『PCAクラウド』側でも予算設定を行った。月次レベ

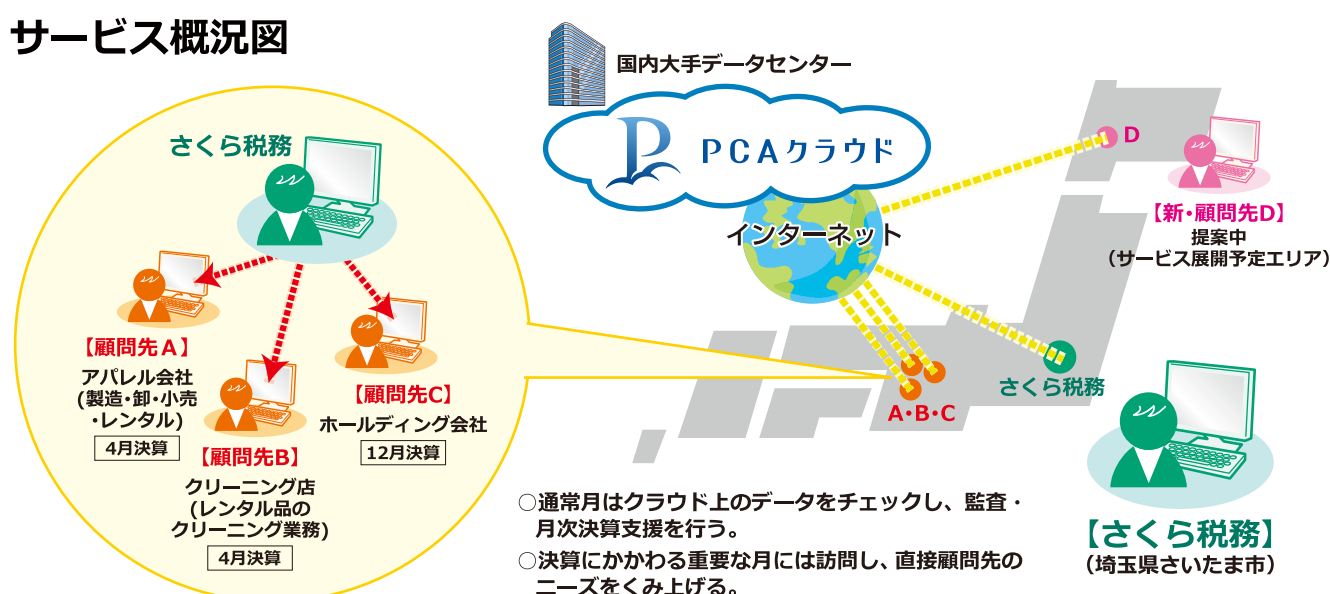
ルで予算・実績に対しての差異分析も行っている。

また、経理部長しか行えなかった経理業務を、安定稼働後には一般の若手従業員でも行えるように業務移管ができた。経理部長は、別の非定型業務に専念することができ、業務の生産効率が高まった。

「お客様には本来すべき業務を行っていただきたい。そのためにはITでカバーをし、業務を簡素化する必要があります。ITの標準化さえできれば誰でも利用できるのですから、定型業務は担当者に、否定形業務は部長・マネージャーに行っていただくことで1人当たりの生産性を上げていくことが重要だと考えています。」と安井氏は語る。

『PCAクラウド』を利用して「経営の可視化」を実現し、その内容を判りやすく読み解き、経営者に伝えるコンサルティングは正に社長の右腕となる付加サービスである。

サービス概況図



【業務テーマ】

◇スモール企業支援、再活性化支援

既成の「税理士」といったイメージを全く打ち破るワンストップ型のスモール企業総合経営支援。実際に再生企業に役員として身を投じる指導活動は、「企業の町医者」として税理士業務を全く超越している。

◇経営支援の業態化、チェーン化を目指す

作り手本位の会計事務所。ただの申告書の代書屋の単機能の「業種」から、外部の多様な専門家とも連携し、「顧客が真に求めている変革」へワンストップに支援する顧客本位の「業態」を確立する。その上にドミナント形成をベースにしたチェーン展開を目指す。

◇特化業種、チェーンのバックオフィス・インフラ

全国シェアの5%を超えたコンビニを始めとする、フード、接骨院、介護事業といった特化業種、チェーン店の経営情報、会計決算、税務申告、労務、社会保険、会社登記、売上アップ、コストダウン等ワンストップに支援するバックオフィス・インフラを目指す。

(「税理士法人 さくら税務」HPより)



税理士法人 さくら税務 HP
http://sakura-zm.net/

安井氏はそういった付加サービスとして、差異の内容を読み解き、経営者向けに簡易なレビューを電話やメールで行っている。概ねクラウド上のデータをチェックするだけで毎月の監査は終了するため、顧客訪問を行うことはない。そのコスト削減分を顧問料に反映させ、還元している。

ただし、9か月目に行う決算前ミーティングや、決算月・申告月の計3回については訪問し、相対しないとできないコンサルティングサービスを提供している。提供しているサービスと顧問料を比べてもらい、非常にコストパフォーマンスの高いサービスであると、顧問先から好評価を受けている。

ることなく、顧問先とのコミュニケーションを向上できるツールであると考えているからだ。自計化できていない顧問先にいきなりクラウドサービスを適用することは難しいが、導入のための研修サービスなども行い、業務をスムーズにこなし、経営数値に興味を持っていただけのような支援も行っている。

次の課題としては、「事業承継も含めたグループの生き残り戦略」である。安井氏は、「1stステップの経理業務改善で関係性を構築することができた。次は顧問先の人と人をつないでグループ内の人的シナジーを活かせる支援を行いたい。」と、次の課題に対するイメージを述べていただいた。

「この成功事例をもとに、次は更に遠地である札幌からの依頼を受けており、顧問契約の話を進めています。」と安井氏は語る。これからの会計事務所にはクラウドサービスがあれば、顧問先との距離は関係なくなりそうである。

今後の業務改善予定

今期から、本社-工場間の本支店勘定を用い、内部利益を管理する管理会計手法を導入した。また、「資金繰り予測」や「キャッシュフロー計算書」などの機能を使用しはじめた。業務改革もひと段落を迎え、さらに高い管理業務を行うために『PCAクラウド』に搭載されている標準機能を徐々に試していく方針だ。

安井氏の持つ顧問先のうち、すでに5社はクラウドへ移行した。クラウドサービスは、距離と時間を考え



クラウドサービスで
新たなビジネス展開へ。
顧問先の管理体制も柔軟に。



しんわ経営グループ
株式会社 経営サポートステーション
(会計事務所)

総合的なビジネス支援事業を行っている、株式会社 経営サポートステーション (会計事務所) は『PCA 会計 for SaaS』を導入し社内システムを再構築した。導入後、顧問先やグループ会社の財務データを一括管理する上での有効性についてお話を伺った。

導入システム

・PCA 会計 for SaaS (5CAL)

導入の狙い

- ・煩雑な顧問先データのチェック、管理体制をシンプルにしたい
- ・バックアップデータをパッケージと同様にクライアント側で操作したい

導入効果

- ・セキュアでリアルタイムなチェック、管理体制が整った
- ・クライアント側でいつでも任意にバックアップデータが取れるようになった

プロフィール

しんわ経営グループ・株式会社 経営サポートステーション(会計事務所)

- 所在地：〒336-0021 埼玉県さいたま市南区別所 5-15-2
- 従業員数：71 人(総スタッフ数)
- 設立年月日：昭和 63 年 9 月
- 事業内容：税理士・社会保険労務士・行政書士等の有資格専門業務、コンサルティング、アウトソーシング業
- 企業 URL：http://www.shinwa-g.net/index.html

起業家が抱える様々な経営問題を、私どもが全て解決いたします。しんわ経営グループは、税理士・社会保険労務士・行政書士等の有資格専門業務機能、コンサルティング機能、アウトソーシング機能等を融合した総合ビジネス支援グループです。



しんわ経営グループ HP



しんわ経営グループ
取締役BPO部 本部長
森重 克昌 氏



ビル外観

導入の経緯

2009年8月、株式会社 経営サポートステーション(会計事務所)で、会計システムを再構築した。同社が採用したのが、ピー・シー・エー(株)の『PCA 会計 for SaaS』シリーズである。導入前は他メーカーのASP製品を運用していたが、操作や機能面の不足から『PCA 会計 for SaaS』へ切替えを行った。導入の狙いはクラウド環境による業務効率アップにある。

会計事務所ならではのメリット、非常時のスタンドアロン運用

会計事務所特有の顧問先とのデータのやり取りが“セキュア”かつ“リアルタイム”になったことが非常に大きなメリットである。顧問先と事務所でライセンスを分けて導入することで、相互で常に最新のシリーズで運用できる。内部でのチェック体制もシンプルになった。

取締役BPO部 本部長の森重氏は、「毎日チェックしているような顧問先については、月次の修正仕訳や決算時のチェック時に都度バックアップを取り、媒体やPDFファイルでやり取りしていたのですが、バージョンの互換性も関係しますので大変面倒でした。また、複数人で1つの顧問先をチェックすることもあるので事務所内での進捗確認も煩わしいと感じていました。SaaSでこれらの問題を一気に解決できたので大変良かったです。」と語る。また操作における安心度も高まったようで、「『PCA 会計 for SaaS』はセキュアな環境で利用できますし、これまでのクライアントサーバー型の製品同様、クライアント側から任意の場所にバックアップを確保できる」といった仕様になっているので、大事な顧問先のデータも非常に安心して操作できますね。」と満足されている。

万が一、不測の事態でインターネット回線が繋がらなくなった場合には、緊急時用のスタンドアロン版プログラムも提供している為、一時的にローカル運用が可能だ。業務の流

れが止まってしまうという大きなリスクの回避になる。さらに「旧システムも一般的なASPサービスによるものでしたが、ユーザー側でのバックアップデータの保存ができなく、手元にも残らないので困ってしまっていた・・・」と管理部 部長の岩原氏は言う。

標準機能を汎用的に使う

同社はさらにグループ会社(6社)の財務経理を一括して管理しており、それぞれが法人格を持っているものの、現在は標準機能をうまく使って運用している。グループ会社の財務経理を担当されている岩原氏に以前の話を聞いたところ、それぞれ別領域で管理し、月次毎に領域単位で汎用データ化、その後Excel®で加工するといった大変な手間があった。「旧システムは任意の部門を自由に取り出して集計することに特化していましたが、合計値や消費税の集計ができないといった機能面での不足がありました。それに比べ『PCA 会計 for SaaS』では部門会計の機能や消費税の計算まで完結できます。導入時に複数法人を1つの領域でどう運用していくか、といった相談もサポートいただき、安心して稼働させることができました。」と言う。

今後の展開と課題

次のステージとしては既に新しいビジョンがあった。「今後は、顧問先のチェック業務等も在宅で業務ができないだろうか、という想定もしていますね。コンプライアンスの問題等をクリアして、実現に向けて検討していると思っています。」と森重氏は語る。クラウド技術による無限のビジネス展開の可能性を示唆している。



より機能を充実させた

『PCA公益法人会計』の配賦入力。

提出書類の Excel®テンプレート作成も可能。

公益法人会計なら、PCAの評価を実感

ひょうご税理士法人

累計 1100件以上の相続税申告を手掛けているひょうご税理士法人。相続以外にも、多くの中小企業の決算業務や経営改善指導にも力を入れており、経営革新等支援機関にも認定されている。同法人には公益法人からの依頼もあり、『PCA公益法人会計 V.12』をクラウドで利用し、顧問先と同一データを共有しながら迅速に対応している。「公益法人なら PCA」という前評判で『PCA公益法人会計 V.12』の導入を決めたと語る同法人だが、実際にはどのような効果が表れているのかを、会計のエキスパートに伺った。

導入システム

○PCA クラウド BPO プラン (1GB モデル 5CAL) ※1

- ・ PCA 公益法人会計 V.12 for SaaS
- ・ PCA 給与 X クラウド

※1: 【BPOプラン】 会計事務所・社会保険労務士事務所・アウトソーシング向けプラン

導入の狙い

- ・ 公益法人の新規の顧問先が増え、公的な団体でよく使用されている『PCA 公益法人会計』の導入を検討。
- ・ 会計基準の変更における業務負担を軽減したい。
- ・ 遠方の顧問先もあり、物理的な移動を軽減したい。
- ・ 顧問先の問い合わせに対してスムーズに対応したい。

導入効果

- ・ 配賦入力が非常に便利で、内訳表も容易に確認できる。
- ・ 提出書類の Excel® テンプレートが作成でき、申請書類作成もスムーズになった。
- ・ 『PCA クラウド』によって、遠方の顧問先のデータを事務所側の都合のよい時間に確認できる。
- ・ 顧問先からの問い合わせにも、同時にパソコンを利用しながらいつでも対応できる。
- ・ 『PCA クラウド』ならコストも抑えられ、常に新しいバージョンで利用できる。

プロフィール

ひょうご税理士法人

ひょうご行政書士法人／妹尾公認会計士事務所

□代表: 妹尾 芳郎

□所在地:

(塚口本店) 〒661-0012 兵庫県尼崎市南塚口町 2丁目 6番 27号

(川西支店) 〒666-0021 兵庫県川西市栄根 2丁目 6番 37号

□設立: 平成元年 8月

□資本金: 950万円

□従業員数: 34名

□URL: <http://senoo.net/>

私たちは、お客様に満足していただくことを第一の目標に掲げ、地域密着の税理士法人として親身なサポートを提供いたします。

□業務内容:

- ・ 相続対策・事業承継コンサルティング
- ・ 遺言書・任意後見契約書作成業務
- ・ 成年後見人業務
- ・ 戸籍収集・相続手続き・遺産整理業務
- ・ 法人設立業務
- ・ 融資コンサルティング
- ・ 経営(改善)計画書作成支援
- ・ 経営会議指導及び参加
- ・ 事業再生コンサルティング
- ・ 不動産コンサルティング



ひょうご税理士法人(塚口本店) 外観

※ 2012年 10月に、『PCA for SaaS』から『PCAクラウド』へ名称を変更いたしました。



ひょうご税理士法人
経営支援チーム リーダー
榎 健司 氏



ひょうご税理士法人
税務コンサルタント
三木 尋子 氏

導入前の運用と選定のポイント

○『PCA公益法人会計』への高い評価が決め手に

ひょうご税理士法人は、兵庫県川西市・池田市・尼崎市を中心に、遠くは姫路市や大阪府南部にまで顧問先を持つ。尼崎市以外に川西市にも事務所を構え、スタッフ数は34名にのぼり、「相続に強い税理士法人」として知られている。以前から同法人の顧問先には公益法人もあったが、その件数は他の一般中小企業に比べ少ないため、公益法人専用の会計ソフトの導入は見送られていた。そのため顧問先の公益法人を訪問し会計処理を行っていたが、遠方の顧問先もあり、移動だけで往復2時間かかることもあった。

そこで新規の公益法人の顧問先が増えたことをきっかけに、本年 1月『PCAクラウド』を利用した『PCA公益法人会計 V.12』を導入。3月の決算期から実際の業務での使用を開始した。

同法人が『PCA公益法人会計 V.12』を選定した理由として、まずは以前からの顧問先がすでに『PCA公益法人会計』を導入し、その操作に慣れていたこと。次いで、「公益法人会計なら PCA」という周囲からの評価も大きかった。

「以前、公益法人会計の研修に参加したときに、『会計ソフトはどのが良いか?』という話題になりました。その際に推奨されていたのが『PCA公益法人会計』で、『公益法人=PCA』というイメージが強かったです」（経営支援チームリーダー 榎健司氏）

「じつは公益法人協会にも聞いてみたのですが、やはり『関西では PCAがよく使われている』というご意見でした。確かに既存の顧問先様もお使いになって

おられましたし、公的な団体でもよく使われているということで安心感がありました」（税務コンサルタント 三木尋子氏）

これらの評価に加え、「公益法人会計をクラウドで使える」という点が、最後の大きな決め手になったという。「『PCAクラウド』ならコストは月々の利用料だけです。新しいバージョンを常に使えますからね。それで即、導入を決断しました」（三木氏）

導入後の効果

○5段階のグルーピングにより、切り口を変えた集計・出力が容易

『PCA公益法人会計』は奥の深いソフトだと語る三木氏。ソフトの特性や機能をしっかり理解できれば、顧問先にとっても非常に有効活用できるソフトだと感じている。

監査する立場の同法人では、日常の入力処理よりも内訳表などの全般的なチェック作業が多い。そのため事業別の集計を容易に出せることが求められるが、『PCA公益法人会計 V.12』では科目の登録において、5階層までのグルーピングが可能だ。これにより、事業別あるいはプロジェクト別と切り口を変えた集計が可能になり、内訳表も会計・事業・グループ別に指定して出力できる。行政庁への提出資料を作成する場合にも非常に便利だ。

○バージョンアップを重ねるごとに厚みを増した「配賦入力」

『PCA公益法人会計 V.12』の配賦機能も、非常に工夫している点だと三木氏は評価する。

「配賦の機能は案外重要な部分だと思

います。配賦については迷われる顧問先様も多く、クラウド導入前は訪問してご指導していました。『PCA公益法人』の最初のバージョンの配賦は簡易的な印象でしたが、バージョンアップを重ねるごとに、機能は随分良くなったと感じています」(三木氏)

『PCA公益法人会計 V.12』の配賦入力では、共通経費等をそれぞれの会計・事業ごとに直接支払う場合の「簡単配賦入力」。法人全体として支払い、その仕訳登録時に負担額を配賦する「直接配賦入力」。さらに「集計配賦入力」「一括配賦処理」など計4種類の入力方法がある。あらかじめ適切な科目名称やコード番号の設定が必要になるが、公益法人会計ならではの会計区分をまたぐ仕訳が非常にスムーズになる。ほかにも『PCA公益法人会計 V.12』では「申請書類のExcel®テンプレート作成」の新機能が搭載され、申請書の一部をExcel®テンプレートとして出力できる。そのため数字の修正もしやすい。この新機能も同法人では好評だ。

PCAのサポートセンターの対応も評価が高い。当初、三木氏は、全国の会計事務所で決算処理が重なる3月頃には、

おそらく電話も繋がりにくいのではと不安に感じていたようだ。しかし実際には繋がりがやすく、疑問点にも丁寧に対応してもらったと語る。

○万が一の事態への備えが十分な『PCAクラウド』

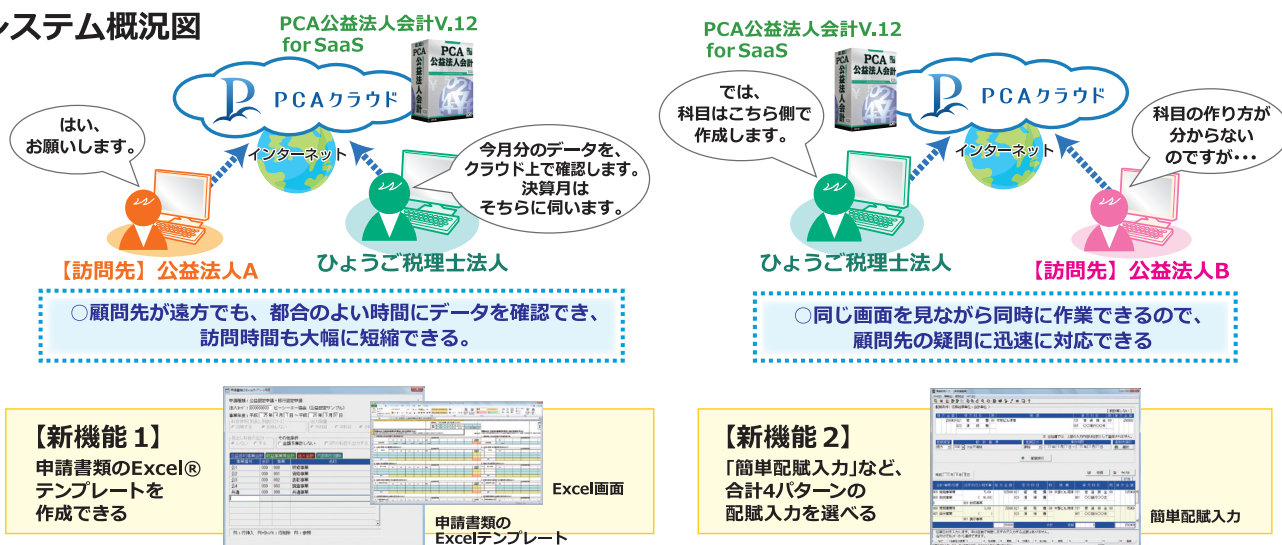
『PCAクラウド』については、当初はいくつかの不安があったようだ。「税理士法人では顧客情報をしっかり守り抜くことが最優先課題です。情報漏えいの不安についてはPCA側に何度も確認し、わかりやすく安心できる解答をいただきました。またネット回線にトラブルが起きた場合でも、緊急時対応のスタンドアロン版が標準添付されていると聞き、不安は軽減できました。クラウドのライセンス費用は同時接続台数のため、事務所内の全てのパソコンにソフトをインストールしても、費用は変わりませんので非常に重宝しています」(三木氏)

一方で、注意しなければならない点もあるという。「間違えて顧問先様を管理者に設定しないように気をつけなければなりません。万が一誤って設定すると他の企業様の情報まで見えてしまい



ひょうご税理士法人(塚口本店)
和を感じる落ち着いた雰囲気の内装

システム概況図



【ひょうご税理士法人 HP】

http://senoo.net/

兵庫県を中心に、税務申告・月次決算・会社設立・遺産相続をサポート。ご相談はひょうご税理士法人グループへ



【ひょうご相続相談センター HP】

http://hyogo-souzoku.net/

圧倒的なノウハウを基に、相続税申告実績 1100件超の豊富な実績

【神戸・尼崎会社設立ネット HP】

http://www.kobe-ama.net/

会社設立・創業時の資金調達・企業後の経営を、公認会計士・税理士・行政書士がトータルサポート

ます。税理士法人・会計事務所などでクラウドを導入される場合には、この部分は二重チェックを設けて数名で確認した方が良いと思います」(三木氏)

○小さな公益法人や会計事務所こそ、『PCAクラウド』のコストは魅力

『PCA公益法人会計 V.12』×『PCAクラウド』によって、時間に制限をかけることなく、事務所側の都合に合わせて業務を行えるようになったことは、税理士法人にとって非常に大きな意味を持つと三木氏・榊氏の両氏は語る。

「多くの決算は 3月に集中します。この間に何社も確実に訪問することは不可能であり、この時間の問題をクラウドで解決できることは非常に有益です。実際、ある顧問先様には以前は年間 200時間訪問していましたが、クラウド導入後はその 200時間を大幅に短縮できました。顧問先様にとってもクラウドは便利で安心だと思います。一例をあげると、ある顧問先様から科目の作り方がわからないとお電話をいただきました。その場合も一緒に画面を見ながら、こちら側で入力すれば済みますからね」(三木氏)

公益法人、あるいは公益法人を顧問先に持つ税理士法人や会計事務所にとって、公益法人会計のソフト選定は、この時間効率がもっとも大きな要素となるのかを伺った。

「確かに時間効率も大事ですが、公益法人様・税理士法人・会計事務所などはその規模が様々で、小さな公益法人

様や会計事務所からすると、公益法人会計ソフトは正直、高額かもしれません。そういう意味でも、クラウドによる公益法人会計ソフトはやはり画期的です。なぜなら導入費用を含めたトータルコストを抑えることができますから。1カ月の体験版も利用できるので、じっくり検討できると思います」(三木氏)

今後の展望

○未来に向けた会計・コンサルティング業務

同法人は「相続対策」「中小企業支援」の 2本の柱を持っている。経営革新等支援機関の認定も、中小企業への優遇制度を活かし、顧問先の負担を軽減させるためのものだ。

「当法人では過去を追う会計というよりも、未来に向けた会計・コンサルティング業務を行っています。その中での PCA製品の活用は、当事務所の効率化にとどまらず顧問先様にとってもプラスになるものにしたいです」(榊氏)

「クラウドによって顧問先様での自計化が促進し、それによって経営への意識もさらに高まるのではと期待しています。今後は今以上に経営の中に入ったお手伝いをさせていただきたいですね。そして社会福祉法人様など、さらに多くの公益法人様からのご依頼に応えていきたいと思っています」(三木氏)

ピー・シー・エー株式会社

pca.jp

Since 1980.8.1

本社 〒102-8171 東京都千代田区富士見1-2-21 PCAビル TEL.03(5211)2700 FAX.03(5211)2740

※Access®は Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標です。

※Excel®は Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標です。

※会社名と製品名は、それぞれ各社の登録商標または商標です。

※記載内容は取材当時の情報を元に作成しております。現在とは内容が異なる場合がございますのでご了承ください。



『PCA for SaaS』導入企業が 1,000 社突破！
1,000 社目の企業様を、
ピー・シー・エー代表の水谷が訪問。



柿沼税理士事務所

2012 年 3 月、ピー・シー・エーの基幹業務クラウドサービス『PCA for SaaS』の導入企業数が、1,000 社を突破しました。業界に先駆けたサービス提供は、多くのお客様にご評価いただき、お客様の業務効率向上、業務コストの低減に効果を発揮しております。記念すべき導入 1,000 社目のお客様である柿沼税理士事務所様に、弊社代表の水谷が訪問し、その導入された経緯や効果を伺ってまいりました。

導入システム

- ・ PCA 会計 9V.2R7 for SaaS ・ PCA 給与 9V.2R7 for SaaS
- 【BPO プラン】 ※会計事務所・社会保険労務士事務所・アウトソーシング向けプラン

導入の狙い

- ・ 顧問先とのリアルタイムなデータ共有
- ・ 会計データを確認するための顧問先訪問の手間を削減

導入効果

- ・ 顧問先の会計データを即時確認できるため、データ確認のための訪問の手間が軽減
- ・ 顧問先へのスピード対応が可能になり、信頼度アップ
- ・ 顧問先における自計化を実現

プロフィール

柿沼税理士事務所

- 所在地：〒151-0051
東京都渋谷区千駄ヶ谷 3-8-11 第三宮廷マンション 207 号室
- 従業員数：5 名
- 設立年月日：2002 年 9 月
- 事業内容：法人個人税務会計顧問業務、相続対策等コンサルティング、経営支援コンサルティング、税務調査の立ち会い等

＜経営理念＞

柿沼税理士事務所は、人材こそが最高のリソースであるという考えのもと、クライアントのもう一つの目となり、耳となり、口となり、頭脳となることを使命としています。



柿沼税理士事務所
所長・税理士
柿沼 孝佳 氏



『PCA for SaaS』に対する期待感や要望を、
お話いただきました。

『PCA for SaaS』導入前の状況

柿沼税理士事務所様は、中小企業の会計・税務の心強いパートナーとして日々活躍されています。本事務所の所長であり税理士でもある柿沼孝佳様は、開口一番、『PCA for SaaS』が実現するリアルタイムなデータ共有について、その利便性や業務効果をお聞かせくださいました。

『PCA for SaaS』を導入する以前は、顧問先の経理状況を確認するために、所員が顧問先を訪問する必要がありました。この訪問するという手間が相当な業務負担になっており、しかも、顧問先における「会計の自計化」（顧問先である企業が自分で会計ソフトに必要なデータを入力すること）を阻害することにもつながっていました。

「会計の自計化」を推奨

柿沼税理士事務所様では、Web カメラを使用して、顧問先の経営者や担当者とのコミュニケーションを図り、各種会計・税務相談を円滑に進められています。そして、『PCA for SaaS』を導入されたことで、顧問先の会計データをリアルタイムに共有することが可能になり、「顧問先のお客様は、自社の経理状況について知りたい時に答えが出てくる。だから、お

客様も会計ソフトの利用を続けられる」と、柿沼様は『PCA for SaaS』が実現した導入効果と顧問先での「会計の自計化」推進についてお聞かせくださいました。

Web カメラと『PCA for SaaS』を利用した業務運用は、顧問先に「（自社を）見てくれている安心感」を与え、という効果もあるとのこと、税理士事務所にとって『PCA for SaaS』が強力なサービスであることが分かります。

他の会計ソフトを使用しているような企業を『PCA for SaaS』に変えたい!!

すでに、顧問先の9割近くで『PCA for SaaS』をはじめとしたPCAソフトの運用・管理をいただいております。今後も「他社製会計ソフトを使用している企業に『PCA for SaaS』を勧めたい!」と力強いお言葉をいただきました。

また、弊社代表の水谷へ、『PCA for SaaS』を利用した顧問先様との関係性向上のための機能要望をいただくなど、話は大いに盛り上がりました。柿沼税理士事務所様のご期待に応えられるよう、弊社は今後もクラウドサービスの強化を図ります。



少人数運営の会計事務所が抱える問題を

『PCAクラウド』で解決。

『PCA医療法人会計』の“見せる経営分析”で、
より明確な経営意識につなげる

川田史衣税理士事務所

川田史衣税理士事務所は開業して5年の新しい税理士事務所だ。現在、川田史衣(ふみえ)先生が主に一人で税務相談・経営相談に対応している。そんな小さな税理士事務所の業務を支えているのが『PCAクラウド』だ。医療法人の顧問先を持ち『PCA医療法人会計』をクラウドで利用している同事務所。「クラウドだからできたこと」がたくさんあると川田先生は評価する。地方都市で開業している個人の税理士事務所・会計事務所にとって、円滑な事務所運営のヒントにできるお話も伺った。

導入システム

○PCAクラウド イニシャル0'プラン (Type2 2CAL)

・PCA医療法人会計 for SaaS

○PCA会計XシステムB ○給与じまん9V.2

○PCA減価償却V.3 ○PCA法人税 ○PCA所得税

導入の狙い

- ・大切な顧客データを確実に管理したい。
- ・物理的な移動の負担を減らして監査業務を行いたい。
- ・医療法人の経営分析を、わかりやすく伝えたい。

導入効果

- ・『PCAクラウド』の自動バックアップ機能によってデータを管理。
- ・『PCAクラウド』によって時間と距離の問題を解決。子育て中の忙しい環境でも、業務を続けていくことができる。
- ・『PCA医療法人会計』の分析機能は、分析できる内容も見せ方も多彩で、顧問先にわかりやすく伝えることができる。

プロフィール

川田史衣税理士事務所

- 所在地: 〒780-0862 高知市鷹匠町1-3-1 フローレンス鷹匠1501
- 設立: 平成20年8月1日
- 主な業務内容:
税務相談、法人税、消費税、相続税、節税対策、資金繰り、会計ソフトを使ったIT化支援(電子申告・パソコン会計)、記帳代行、経営相談など。
- 主な対応業種:
卸小売業、医療・福祉業、公益法人等、飲食業、建設業、不動産業、製造業、運送・運輸業、農林水産業、金融保険業、美容業、その他サービス業など。
- URL: <http://www.kawada-tax.com/pc/>

□事務所案内:

高知市の税理士、川田 史衣(かわだ ふみえ)と申します。
主に高知県の高知市を中心に、四国エリアでフットワークよく活動しています。川田史衣税理士事務所では、四国エリアの地域経営活性化に向けた取組みを積極的に行っております。税金対策から経営相談まで幅広く対応し、経営者の皆様の長期安定型経営を応援致します。
いつでも税理士本人が、お客様の元に伺い、誠実に対応させていただきますので、どうぞお気軽にご相談ください。
(川田史衣 HPより)

※ 2012年 10月に、『PCA for SaaS』から『PCAクラウド』へ名称を変更いたしました。



川田税理士事務所
税理士
川田 史衣 氏



事務所にて取材

導入前の課題と選定ポイント

○個人で運営している税理士事務所にとって「確実に顧客データを守れる対策」とは？

現在、川田史衣税理士事務所では『PCA医療法人会計』『PCA減価償却V.3』『PCA会計X』『PCA法人税』『PCA所得税』など多くのPCAソフトが導入されている。川田氏が以前勤務していた会計事務所では他社の会計ソフトも数多く利用されていたが、5年前、川田氏が事務所を開業してからは、ほぼPCAソフトで業務を行っているようだ。

「開業時にPCAパートナーの株式会社アルベロに、どのような会計ソフトが当事務所にふさわしいのかを相談しました。そのときに勧められたのがPCA製品です。実際に使い勝手は非常によいです。画面が見やすく入力しやすいですし、セキュリティや監査機能も充実しているため、監査する立場で見た場合も便利です。また後に詳しくお話しますが、グラフ化による“見せる機能”も顧問先様からは大変好評です」(川田氏)

同事務所では『PCA医療法人会計 for SaaS』も導入し、顧問先である医療法人にも導入している。川田氏が『PCA医療法人会計 for SaaS』を検討したきっかけは2つあったという。まず1つめが「セキュリティ」「データ管理」の問題だった。現在、同事務所では川田氏がすべてのデータ管理を行っており、一人での管理に限界を感じていたようだ。

「数台のパソコンを利用しているても、データを保管できる容量には限界があります。また、万が一事務所内のパソコンに何かあった場合にはどうしようという不安もありました。実際に、使用していたパソコンが突然ダウンしたこともあり、一人でも確実にデータを守れる方法を探し

ていました」

そんなときに、2つめの大きなきっかけとなる東日本大震災が発生。「どんな事態においても、顧客のデータをしっかり守れる対策」として、『PCAクラウド』が選ばれた。

導入後の効果

○大事な顧客データを自動バックアップ。物理的な移動の負担を減らし、時間の効率化も

実際に『PCAクラウド』を導入したことで、毎日の業務に大きな安心感が生まれたと川田氏は評価する。

「クラウドを導入することに、いっさい不安はありませんでした。なぜなら『PCAクラウド』はシステムとして確立されており、実際に稼働率や安全性、データセンターの安全対策などあらゆる面において、安心してお任せできるシステムだと思ったからです。そもそも自分一人だけでデータを抱え込んでいた状態の方がずっと危険でしたからね。データは夜間に自動バックアップされているため、仮にパソコンに何かがあってもデータは確実に残っているという安心感はとても大きいです」

また、『PCAクラウド』を導入したことで、当初はあまり意識していなかった物理的な移動の負担が、大きく軽減できたことも重要なメリットだと語る。以前は顧問先まで車で片道1時間をかけ、1週間に1度通っていたが、クラウドによって1カ月に1度の訪問回数に減らすことができたという。

「訪問回数自体は減りましたが、処理にかかる時間を軽減できたことで、その分顧問先様のお話をじっくり伺う時間が増えました。電話を利用しながら、顧問先の担当者様と同じ画面を見て、疑問などに

も対応できるわけですから、先方にとっても安心感はあると思います。また現在、小さな子供もいるため、移動の負担を軽減でき時間的な効率化が実現できたことは、『PCAクラウド』にしておいてよかったなあと、導入後にあらためて感じたことの一つです」

○比較財務諸表の構成比グラフで“見える経営分析”

『PCA医療法人会計 for SaaS』について、川田氏は分析機能の多彩さを高く評価している。例えば経営分析表の場合、「収益性」「安全性」「機能性」の各指標の目標値と実績をリアルタイムに比較でき、厚生労働省が指定している病院経営管理の指標と同じ分析項目で出力できる。医師や看護師、患者の人数などをあらかじめ入力しておく、医業利益率や人件費比率、減価償却費比率などはもちろん、総資本回転率や職員1人当たりの医業収益も迅速に集計できる。従来から見えにく

い、わかりにくいといわれていた病院の経営状況を、簡単かつ迅速に把握することが可能だ。

また、川田氏は比較財務諸表の構成比グラフは、顧問先からも重宝されているという。

「税理士の立場では数字の差額に注目しがちですが、医療法人の担当者様のお立場ですと、やはり見やすい、わかりやすいことが大事になってきます。そこでグラフで表示するととても喜ばれます。私が担当している医療法人様の場合、3期の財務諸表をグラフで見比べて、経営分析に活かしておられます。最近は厚生労働省からも各病院や各医療法人に対して、経営意識を強く持つように指導されています。そのためお医者様も、自分は新規患者さんを何人診たのかという点や、1病床当たりの総資産や固定資産、あるいは医業収益と借入金の比率など、そのような経営面も気にされる時代になりました。これらの分析結果をグラフ化してわかりやすい財務諸表にできる点は、『PCA医療



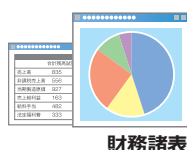
川田氏は事務所を運営する傍ら、小さなお子様をお持ちのママの顔を持っています。

システム概況図

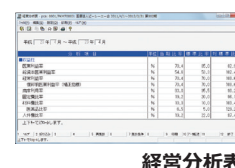
『PCAクラウド』によって、**顧問先と同じ画面**を見ながら監査・指導。
常に**最新データを一元管理**でき、タイムラグによるデータの不一致もない。



財務諸表がグラフで
見ることができるので、
分かりやすく、
比較しやすい。



『PCA医療法人会計』は
分析機能が充実。
「経営分析表」では、収益性・安全性・機能性
の各指標の目標値と実績を
リアルタイムに比較が可能。





川田史衣税理士事務所 HP
<http://www.kawada-tax.com/pc/>

**税金対策から経営相談まで、
 安心してお任せください。**

【業務案内】

□ 税務相談

税務調査への対応策をはじめ、円滑な申告や税金対策のご相談を承ります。法人から個人の方まで、幅広く対応します。法人税・消費税・相続税など、各種ご相談をお待ちしております。

□ 会計経理

記帳代行、決算書作成、会計ソフトを使ったIT化支援など、会計・経理はプロの専門家にお任せください。川田史衣税理士事務所では、申告・会計処理などの業務円滑化のため、各種会計ソフトを採用しております。

また、お客様に応じて、自計化・電子申告の推進もしています。詳しくはお問い合わせください。

□ 起業家支援

ビジネスの世界でこれから活躍を期待される起業家の皆さま！ 起業・開業するためには資金調達から書類作成、各種事務処理手続きなど、やらなければならないことがたくさんあります。

川田史衣税理士事務所では、これから起業・開業をしようと考えている起業家の皆さまに活躍していただきたく、面倒な事務処理から資金調達まで、これまでの経験を活かして、出来る限りサポートさせていただきます。

□ 経営相談

経営者の皆さまは孤独です。そんな経営者の皆さまには、いつでも気軽に相談できる窓口が必要です。川田史衣税理士事務所では、経営者の皆さまに、これまでの経験を活かして、経営相談・経営アドバイスをしております。

相続、資金繰り、経営改善など困りではありませんか？ 社長がしっかりと経営目標を立てているかどうか、会社の継続性が大きく左右されてきます。経営に行き詰る前に、まずはご相談下さい。

法人会計 for SaaS』の便利な点の一つだと思います」

他にも『PCA医療法人会計 for SaaS』には、病院独自の科目体系を簡単に設定できる機能もある。病院会計基準に則った科目があらかじめ登録されており、勘定科目は正式名称と略称の2通りで登録できる。

「医療法人会計については、大きな病院の場合はあるメーカーの製品がよく使われていますが、機能が非常に多すぎて、入力操作を難しく感じる人がいるかもしれません。それに対して『PCA医療法人会計 for SaaS』は不慣れな人でも入力しやすいと思います。大病院から小さなクリニックまで規模を問わずに使いやすいのではないのでしょうか」

○多くの顧問先様に『PCAクラウド』の良さを伝えたい

「『PCA減価償却』もよく使っているのですが、これこそクラウドで利用できたら便利だろうと思います。顧問先様によっては登録している資産が100件以上ある場合もあります。実は以前、『PCA減価償却』を入力しているときにパソコンがフリーズしてしまい、PCAのサポートセンターに連絡したところ、大変丁寧にわかりやすく教えてくださって、データも無事復旧しました。クラウドのストレージ性に魅力を感じて導入した企業や会計事務所も多いと思いますので、ぜひ『PCA減価償却』にも広げていただきたいと思います」

今後の展望と課題

○地方都市の距離と時間の問題も『PCAクラウド』で解決できる

現在、高知市内を中心に活躍している川田氏だが、距離と時間の問題を解決できる『PCAクラウド』によって、より多くの医療法人や社会福祉法人、公益法人の力になりたいと語る。

「高知県には税理士が一人も登録していない町もあります。きっと困っている方も多いのではないのでしょうか？ このような地方都市が抱える問題も、クラウドによってある程度解決できると思います。医療法人や社会福祉法人、公益法人などを得意としていますが、その他の特殊法人や個人の方のご相談にも対応しています。また女性経営者の方も気軽にご相談いただきたいです。『PCAクラウド』によって、顧問先様がいつでも気軽に相談できる環境づくりが可能ですから、今後もぜひその良さを伝えていきたいですね」

ピー・シー・エー株式会社

pca.jp

Since 1980.8.1

本社 〒102-8171 東京都千代田区富士見1-2-21 PCAビル TEL.03(5211)2700 FAX.03(5211)2740

※Access®は Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標です。

※Excel®は Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標です。

※会社名と製品名は、それぞれ各社の登録商標または商標です。

※記載内容は取材当時の情報を元に作成しております。現在とは内容が異なる場合がございますのでご了承ください。

2015.03.01



『PCAクラウド』BPOプランで、小規模な公益法人でも PCAソフトを低価格で利用。

現場の公認会計士・税理士の声を反映した会計ソフト

衣目公認会計士事務所

中小企業のみならず様々な規模の公益法人や社会福祉法人など、日本全国に顧問先を持つ衣目公認会計士事務所。遠方の法人の会計処理をよりスムーズに、かつ確実に行うために検討されたのが『PCAクラウド』だった。その検討の際に優先されたのが、小規模の法人でもなるべく軽い負担で利用できるシステムかどうかという点だった。そこで選択されたのが『PCAクラウド BPOプラン』。実際に現在は顧問先および事務所内の業務の効率化に成功している。

導入システム

○PCA クラウド BPO プラン (1GB モデル 5CAL) ※1

- ・ PCA 公益法人会計 V.12 for SaaS
- ・ PCA 社会福祉法人会計 V.5 クラウド

※1: 【BPOプラン】会計事務所・社会保険労務士事務所・アウトソーシング向けプラン

導入の狙い

- ・コスト面でソフト導入をためらっている小規模公益法人の会計処理を効率化したい。
- ・顧問先と会計データを共有し、一元化したい。

導入効果

- ・『PCAクラウド』BPOプランなら、低価格でソフトおよびクラウドの利用ができる。
- ・『PCAクラウド』なら顧問先とデータを共有し、非常にスピーディーに同時入力が可能。

プロフィール

ころめ
衣目公認会計士事務所

□所在地：〒540-0036 大阪府大阪市中央区船越町 1-5-2 PCA 大阪ビル

□設立：1978年8月8日

□社員数：14名

□主業種：公認会計士・税理士

□業務内容：会計業務全般／税務業務全般／決算報告会／任意監査、法定監査／マネージメントサポート／認定支援機関として、中小企業の経営計画書の作成支援・実行支援等／公益法人の会計・監査・税務の支援／社会福祉法人・医療法人・学校法人の会計・監査・税務の支援

□URL：<http://www.np-net.co.jp/korome>

PCA大阪ビル外観

衣目公認会計士事務所は、PCA大阪ビルの4Fです。



※ 2012年 10月に、『PCA for SaaS』から『PCAクラウド』へ名称を変更いたしました。



衣目公認会計士事務所
公認会計士・税理士
衣目 成雄 氏



事務所風景



事務所にて

導入前の課題と運用

○事務所だけでなく、顧問先の負担もなるべく軽減できる新システムに

衣目公認会計士事務所では以前より『PCA公益法人会計』が使用されてきた。同事務所は設備投資に積極的で、グループ企業には業務用パッケージソフトの導入指導を行う企業もあり、PCAのみならず、様々な会計ソフトの特徴を熟知している公認会計士事務所だ。顧問先である中小企業・公益法人は日本全国に広がっており、顧問先の数も多い。そんな同事務所が『PCAクラウド』の導入を検討した背景には大きく2つの理由があった。

まず1つは顧問先の会計データと、同事務所のバックアップデータとの不一致を解消したい点だった。会計事務所と顧問先で同じ会計データを見ているはずが、顧問先で仕訳などが追加され、タイムラグによりその情報を共有できずデータに差が生じ、結果、集計が遅れるというケースは、同事務所に限らず多くの会計事務所で起きている問題だ。

新システム導入にあたって、公認会計士・税理士の衣目成雄（ころめなるお）氏は、このデータのタイムラグを解消できるだけでなく、「小規模の顧問先様にも、なるべく負担をかけないシステムにしたい」という思いもあったと語る。

「顧問先様とソフトやデータを同時に共有できれば、タイムラグの問題は解決します。しかし専用線などを介したネットワーク化では、サーバーの導入費用などが発生します。小さな顧問先様にとってはソフト代も決して安くはありません。そこでコスト面から考えても顧問先様に極力負担がかからないシステムにすることが、クラウド導入の2つ目の理由でした」（衣目氏）

選定のポイント

○低コストで運用できる土業向け『PCAクラウド』BPOプラン

同事務所が導入したのは『PCAクラウド』BPOプランだ。これは会計事務所・社会保険労務士事務所・土業向けプランで、事務所での利用だけでなく、顧問先にも利用してもらえるライセンス方式。顧問先は会計事務所と同じバージョンの同じ画面を利用して入力できる。

「BPOプランの大きなメリットは、あらかじめ当事務所とPCAとでライセンス数などを設定したうえで、ライセンスを共有する顧問先様が高価なソフト代を負担しなくてもよい点です。月額の使用料の中にソフト利用ライセンス代＋サーバー利用ライセンス代、さらに保守費用＋バージョンアップ費用も含まれます。これなら当事務所にとっても、そして小規模の法人様にとっても、十分検討できる金額だと考えました」（衣目氏）

導入の効果

○『PCAクラウド』で同一法人の処理を同時に複数名で入力可能

『PCAクラウド』の導入により、同事務所がもっとも効率化を実感したのは、同じ振替伝票の入力を同時に数名で入力可能な点だと衣目氏は評価する。

「顧問先様によっては、入力のほとんどを当事務所で行うケースもあり、その場合に事務所スタッフ3名ほどが同時に入力を行います。また、入力画面に関しても非常にスピーディに入力できますので入力代行の処理がスムーズに行えます。この同時入力はPCAクラウドだけ

ウドだからこそ可能なメリットといえるでしょう。最近是他社もネットワーク化やクラウド化に力を入れています、データの競合を避けるために同時入力できないシステムがまだ多いと思います。でもこれがPCAにはできる。この点は非常に助かっています」(衣目氏)

同事務所ではクラウドを、顧問先と同事務所内だけでなく、外部ブレーンの公認会計士も利用できるようにすることで、効率的に入力業務を遂行している。多くのクライアントを持つ衣目成雄氏は、当然、外出も多くなる。その場合でもノートPCやスマートフォンを利用し、通信状況が安定している場合にのみ、簡単なデータの確認などを外出先からでも行うなど、クラウドの醍醐味を実感できる活用を行っている。

○多様なパターンの集計・出力が可能『PCA公益法人会計V.12』

『PCA公益法人会計V.12』の良さについて、衣目氏は集計・出力において多様な出し方ができる点を挙げている。例え

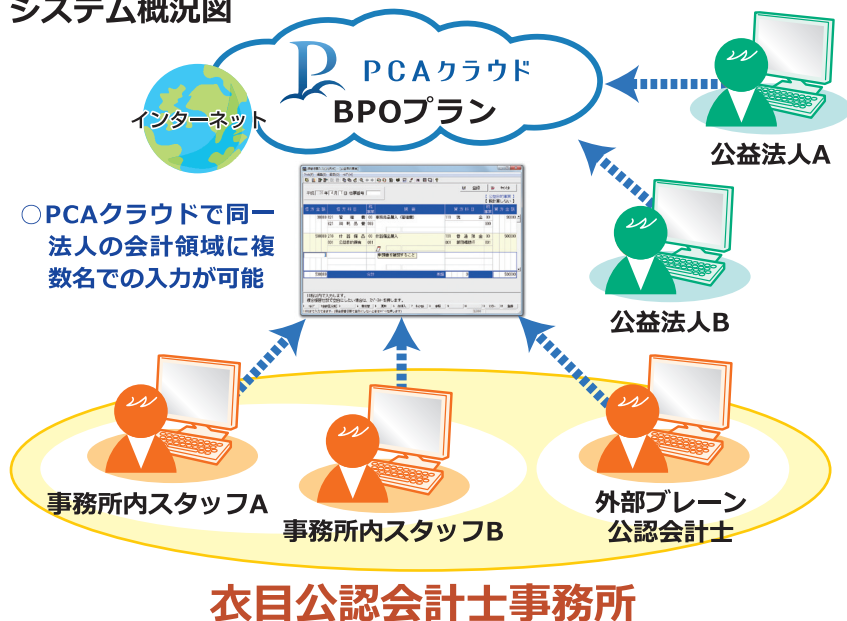
ば自治体などから施設の運営を委託されている公益法人の場合、指定管理者制度で義務付けられた報告書を、定められたフォーマットで提出しなければならない。このフォーマットは『PCA公益法人会計』にも他のソフトにもないため、今までは一度Excel®データとして抽出して合算するしかなかった。つまり会計基準とは異なる形式の資料を行政に提出する際に複雑な編集が必要だったが、『PCA公益法人会計V.12』では、事前に登録(管理グループ)をしておけば、予め抽出して合算したデータもExcel®データとして出力でき、加工も容易にできる。法人によってはこの報告書の件数が多いところもあり、Excel®データでの抽出・加工がスムーズな点はとても便利だと語る。

『PCA公益法人会計V.12』は、公益法人で導入されている会計ソフトのシェアNO.1ということもあり、非常に使いやすく作られていると感じます。内訳表など様々なパターンで登録ができ、この角度から見たらどうなる、別の角度から見たらどのような結果になるなど、角度を変えた視点で集計でき監査もしやすいです。予算管



衣目公認会計士事務所
公益法人支援サイト
<http://korome.net/>

システム概況図



PCA公益法人会計V.12 for SaaS

内訳表

内訳表をExcel®データで集計



- ・指定管理者制度に基づく資料
- ・行政に提出する資料も作成しやすい



衣目公認会計士事務所 HP
<http://www.np-net.co.jp/korome>



衣目公認会計士事務所
 医療法人・社会福祉法人支援サイト
<http://www.igyo.biz/>

理についても、月次の入力を行っていただければ基本的には作成できます」(衣目氏)

○「社会福祉法人会計」の新会計基準移行もクラウドで確実に指導

同事務所では『PCA社会福祉法人会計V.5』も導入している。社会福祉法人会計は、平成24年度より新会計基準が導入され、平成27年度から強制適用となる。すでに新会計基準への適用を開始した法人は全体のまだ10%程度だと推測されている。同事務所は社会福祉法人の顧問先も多いが、まだ新会計基準による決算を迎えた顧問先はなく、『PCA社会福祉法人会計V.5』の良さが見えてくるのは、これからだろうと衣目氏は考えている。

「ただし今から確実に考えられることとして、新会計基準の強制適用に向けて、各法人様からいろいろな疑問が多く寄せられてくるでしょう。その場合、同事務所ではクラウドを利用して、顧問先様に指導ができます。同じ画面を見ながら指導できるわけですから、顧問先様にとっても安心で便利なのではないでしょうか」(衣目氏)

『PCA社会福祉法人会計V.5』については、内部取引消去の機能が便利だと衣目氏は評価する。社会福祉法人の場合、施設をまたがって取引するケースが多いが、その場合も仕訳入力時に拠点間取引などの内部取引区分を設定でき、取引額を自動計算し出力できる。前年度・当年度の消去金額の調整も可能だ。

○現場の公認会計士・税理士の声を反映したPCAソフト

数多くの会計ソフトを知る衣目氏だが、PCAソフトの特徴として、率直に次の2点を挙げている。

「まず1点目ですが、正直、一般会計は大差が出にくい時代になったと感じます。しかしながら公益法人や社会福祉法人など特殊な会計ソフトについては、他社が高額になりがちの中で、比較的価格で購入できる点は評価したいと思います。そして2点目として現場の公認会計士・税理士の声を取り上げて、それを製品に生かしている点は、PCAソフトの一番良い点だと考えています。我々もおしきせのソフトを与えられるよりも、自分たちの声を反映してバージョンアップされたソフトを使える方がうれしいですからね」(衣目氏)

今後の展望と課題

今後は『PCAクラウド』をさらに活用して、顧問先が安心して経理処理が行える環境を提供し、その分、顧問先の今後の経営管理の相談へと還元したいと語る衣目氏。公益法人の顧問先が多い同事務所だが、やはり顧問先の中心は中小企業であり、学校法人や医療法人も含め、あらゆる企業や法人の相談に応えられる実績とノウハウを持っている。

「基本的には中小企業の経営者様のお悩みを聞くことが我々の仕事の中心になっています。経営の相談だけでなく、事業継承や後継者教育などのお悩みも気軽に寄せていただければうれしいです」(衣目氏)

ピー・シー・エー株式会社

pca.jp

Since 1980.8.1

本社 〒102-8171 東京都千代田区富士見1-2-21 PCAビル TEL.03(5211)2700 FAX.03(5211)2740



社会福祉法人の経営を
『PCAクラウド』で強固に支援。
新会計基準にもスムーズに移行

東海浜松会計グループ
株式会社 NBNコンサルティング

東海浜松会計グループである株式会社 NBN コンサルティングは、一般法人へのコンサルティング実績を元に、経営指針に迷う社会福祉法人へのサービスとして『PCA 社会福祉法人会計 V.5 クラウド』を活用。関与先の経営改善・新会計基準への移行に成功した。クラウドならではの支援施策により、新規関与先を開拓し続けるための秘訣を伺った。

導入システム

○PCA クラウド BPO プラン (2GB モデル 10CAL) ※

- ・ PCA 社会福祉法人会計 V.5 クラウド ・ PCA 公益法人会計 V.12 for SaaS
- ・ PCA 会計 X クラウド ・ PCA 給与 X クラウド ・ PCA 商管 X クラウド

※【BPOプラン】会計事務所・社会保険労務士事務所・アウトソーシング向けプラン

導入の狙い

- ・事業のカバレッジエリアを広げたい。また、関与先への訪問頻度も極力少なくしたい。
- ・関与先への新会計基準適用をスムーズに支援したい。
- ・関与先の経営レベルを上げるためのツールが欲しい。また、ツールを使用した自社のサービスを強化したい。

導入効果

- ・コストを最小限にしながら、新エリアの関与先が獲得できた。また、設定やバージョンアップ等の支援もクラウド環境で事前確認を行い訪問回数を低減できた。
- ・『PCA クラウド』の機能と独自サービスを組合せて、スムーズに新会計への移行支援ができた。
- ・『PCA クラウド』をツールの利用することで、関与先が数値に興味をもち、経営レベルが向上した。立上げや導入指導にかかる負荷や時間も低減できた。

プロフィール

東海浜松会計グループ
株式会社 NBN コンサルティング

- 所在地：税理士法人東海浜松会計事務所 経営支援室
〒430-0946 静岡県浜松市中区元城町 113-15
- 創立(グループ)：1964 年
- 職員数(グループ)：73 名
- 資本金：600 万円
- URL：http://www.nb-n.co.jp/

□事業一覧：

事務処理代行支援・記帳代行支援／月次報告会開催支援／経営相談 (30 分 5,000 円)／役員派遣支援／事業再生支援／公益法人経営支援／社会福祉法人経営支援／医業経営支援／新規開業支援／新分野 (海外)進出支援／クリニック開院支援／経営者勉強会／中期経営計画



※ 2012年 10月に、『PCA for SaaS』から『PCAクラウド』へ名称を変更いたしました。

【取材にご協力頂いた皆様】



■株式会社 NBNコンサルティング
取締役 経営支援室長
藤森 秀幸 氏



■株式会社 NBNコンサルティング
(社会福祉法人担当)
藤田 稔 氏



■株式会社 NBNコンサルティング
(公益法人担当)
税理士 松本 力洋 氏

導入前の運用と課題

○サービスエリアを拡大するにあたり導入を検討

記帳代行から自計化支援、中期経営計画策定など、幅広く関与先のニーズに答える NBN コンサルティングは、一般法人だけでなく社会福祉法人や公益法人、クリニック・医療法人など特殊法人への関与にもサービス提供ができ、東海エリアでは多くの支持を得ている。

特に平成 27 年度に新会計制度の移行が予定されている社会福祉法人には、安心して会計移行が行えるよう、無料セミナーの開催から個別の問題点を抽出したり、有償サービスとして新会計移行後の環境を短期間に構築する、などといった支援を用意している。

もともとはオンプレミス型の社会福祉法人向け財務会計パッケージを利用し、巡回監査や入力代行サービスを受託していたが、サービスエリアを拡大するにあたって、システムの限界を感じていた。例えばバージョンアップの際、現地でインストールする作業が発生するが、本社のある浜松市から三重県にある関与先まで赴いたこともあった。そこで関与先との距離を縮めるために、コミュニケーションツールとして導入したのが、『PCA 社会福祉法人会計 V.5 クラウド』である。

導入後の効果

○関与先の可視化ができるツール『PCA クラウド』

○関与先の可視化ができるツール『PCA クラウド』

『PCA クラウド』は、どこにいてもクラウド上にあるサーバーにアクセスするだけで、リアルタイムに反映されたマスタやデータを共有することができる。そのため、関与先との距離を考慮する必要がなく、営業圏を広げることができる。」そう考えたのは、同社経営支援室長 藤森秀幸氏である。

「クラウドはお客様の状況がわかるので非常に便利です。操作の面でも、同じ画面を見ながら説明できるので、どこで困っているのかが分かりやすいし、データの入力状況も訪問しなくても判るようになっていきます。おかげで巡回監査時の限られた時間の中で、仕訳入力などの運用支援を行わずに、データを活用したコンサルティングサービスに注力することができます。」(藤森氏)

NBN コンサルティングは社会福祉法人へ関与する際、各事業毎に適した KPI (KeyPerformanceIndicator=経営重要指標)を設定し、経営状況の見える化ができるように図っている。

「ひとえに社会福祉法人といっても、やっている事業が異なるので同じ物差しでは測れないんです。例えば、障害者施設でいうと利用者の利用率であったり、保育事業であれば、対入園児数と人件費バランス、といった感じでそれぞれ見合った指標を設定する必要があります。また以前は、経営や利益といったことへの関心は低い法人が多かったように感じますが、最近は経営や未来計画を意識した事業運営をしたいと言われる法人も増えてきました。この様な

ニーズに答えられるのも、一般法人に数多く関与させてもらった際の実績があったからで、そこで得たノウハウを社会福祉法人様に提供させていただいております。」(藤森氏)と、自社の強みを語った。

また新会計基準への移行について、「昨年（平成 24 年）に先行適用した法人がすんなりと新会計基準に移行できました。今年はクラウドを利用している数社に対し、新制度を適用する予定ですが、大きな問題もなく移行できるであろうと考えています。」(藤森氏)

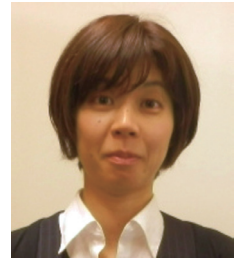
○『PCA クラウド』を利用した新会計基準への移行のための支援施策

株式会社 NBN コンサルティングは、新会計基準の未適用社会福祉法人にも

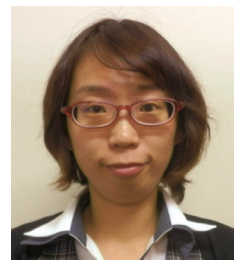
スムーズなスタートを迎えてもらうためのサービスを多く用意している。

「新会計基準制度の概要や移行手順を知ってもらうために、無料セミナーを数回にわたって実施してきました。その中から、移行支援を希望される方には、有償になりますが、新会計基準でマッチングした環境を『PCA クラウド』の中で設定して、すぐに利用できるように準備しております。関与先には、クラウド上で新科目体系などを事前にご確認いただいているので、導入指導に伺った際も、数時間の簡単な操作指導で終わることが多く、短期間で新会計基準での運用ができるようになっていきます。

NBN コンサルティングでは、今後も 26 年度以降に新会計へ移行をお考えの法人様向けにセミナーを開催する予



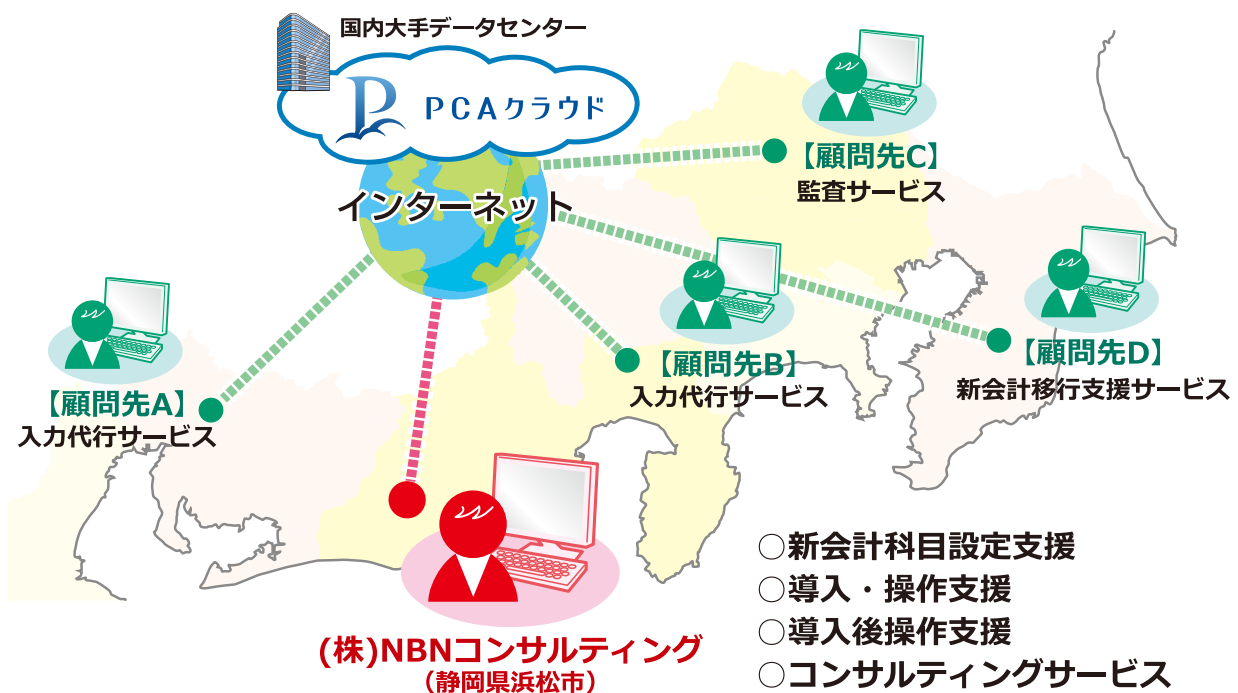
■株式会社 NBNコンサルティング
(社会福祉法人・給与業務担当)
小田木 芙美子 氏



■株式会社 NBNコンサルティング
(一般会計・給与業務担当)
三森 政子 氏

システム概況図

『PCAクラウド』利用によるサービス提供イメージ



経営は悩むよりもまず相談！
(株)NBN コンサルティング

TEL:053-458-0815
soudan@nb-n.co.jp



株式会社 NBNコンサルティング HP
http://www.nb-n.co.jp/

定ですし、また、新会計に移行したが運用がうまくいっていない、決算業務に不安があるといった法人様のご相談にも応じております。セミナー情報については弊社 HP に随時掲載していきますので、ご覧いただければと思います。」(藤森氏)

今後の課題と展望

○これからの社会福祉法人に必要な機能

『PCA 社会福祉法人会計 クラウド』について、「予算の月次設定ができるようになって欲しいです。予算進捗率を見る際に、設定残高だけでは月次単位の行動計画が立てにくい。月別での進捗率が見えれば、より高度な経営へ導くことができると思います。」と経営マネジメント強化のための機能要望をいただいた。

また、「注記や経理規定などのフォームも『PCA クラウド』から出力できればありがたいです。関与先も経理処理にまつわる事務処理に時間を取られている担当者が多いので、財務会計に捉われず、業務改善ソフトとして機能アップして欲しいですね。」ともおっしゃった。

「『PCA クラウド』を選択するには、いくつかのハードルやリスクもありましたが、現状は概ね満足しています。顧客への訪問回数が減らせたことや、作業

時間が短縮できた効果は非常に大きいです。特に決算処理は 3 日かかっていた処理を 2 日に短縮することができました。関与先も財務数値をクラウドを通して見ることで、経営や事業に対してスピード感が増し、よりタイムリーな経営判断へとつながっています。

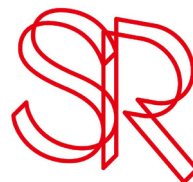
ひとつ要望を上げるとすれば、バージョンアップ時のインストールを遠隔操作できるように検討して欲しいです。もしくは Web ブラウザ等でインストール自体が無くなればサポートでの現地訪問を更に減らせるのではないかと思います。

NBN コンサルティングではお客様との『ご縁』を大事にし、経営のあらゆるご相談に応じております。お客様との物理的、時間的な距離感をなくすことができ、財務、給与等総合的にサポートができるツールは必須です。

『PCA クラウド』は、顧客との関係性を高める良いコミュニケーションツールになっていますので、今後の機能強化に期待しております。」との評価をいただいた。



クラウド活用で事務的時間の効率化と
質の高いコンサルティングサービスを
基盤環境の整備



多田労務管理事務所
Tada Labor Management Office

細かな法改正や企業コンプライアンスの厳格化など、年々複雑さを増す労務・人事管理業務。これらの業務をただ請け負うだけでなく、時代に即した人事制度の導入や運用などのコンサルティングまで行っている多田労務管理事務所。代表の多田嘉恵氏は PCA 主催の労務管理セミナーでも講演を行うなど、「親切・ていねい・わかりやすい」労務管理・人事管理のエキスパートだ。『PCA クラウド』の導入によって複雑な労務管理・人事管理はどのように効率化したのだろうか。

導入システム

・ PCA 給与 9V.2R7 for SaaS (5CAL)

導入の狙い

- ・ 顧問先従業員情報のやり取りにかかっている手間を減らしたい。
- ・ 顧問先で行う事務処理時間を別の付加価値の高いサービスに転換したい。
- ・ 顧問先の個人情報を厳重に管理したい。
- ・ 入力後チェック業務の効率化・銀振データの早期作成を行いたい。
- ・ 様々な業種に対応できる汎用性の高いシステムが欲しい。

導入効果

- ・ マスタ入力された情報を互いに確認し、スムーズな情報のやり取りが可能に。
- ・ 事前にクラウドでチェックを行えることで、顧問先では質の高いコンサルティングサービスの提供が可能に。
- ・ 安心できるセキュリティ・権限設定で情報漏えいの防止対策が容易に。
- ・ 顧問先に訪問せずチェックができ、月次の処理がスピーディに。
- ・ 応用の効くクラウドサービスで多くの顧問先の業務をカバー。

プロフィール

多田労務管理事務所

- 所在地：〒542-0012 大阪市中央区谷町 9-1-22 NK 谷町ビル 403 号
- 所長：社会保険労務士 多田嘉恵(ただ よしえ)
- 従業員数：4 名
- 設立年月日：平成 13 年 1 月 1 日
- 事業内容：社会保険労務士事務所／人事・賃金コンサルティング／労務コンサルティング／アウトソーシング／経営労務監査の提案
- 業務実績：中小企業の人事制度導入、労務管理相談の実績多数、セミナー講師(リコー各社、ピーシーエー、歯科医院ネットワーク、エステ協会、納税協会、各種団体・企業、その他実績多数)
- モットー：「親切・ていねい・わかりやすい」
「社会保険労務士という枠にはまらず、会社経営の経験などを活かし、広い視野で物事を判断できる」
- 企業 URL：http://tada-office.net/

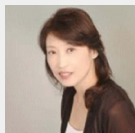
【ご挨拶】

21世紀の変革が続く中で、企業も労働者も労働に対する意識が変わって来ました。法律の改正も多く、企業ではコンプライアンスをより以上に求められるようになり、人事管理・労務管理は以前に比べて、非常に複雑化してきたと言えます。

当事務所は開業以来、手続き業務や労務管理相談等の社会保険労務士業務のみならず、人事制度の導入・運用等のコンサルティングまで、時代のニーズに合った質の高い人事・労務管理を目指してきました。

今後も、社会に常に求められる事務所であり続ける為に、日々努力してまいりますので、どうぞ、ご支援・御鞭撻を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

(多田労務管理事務所 HPより)



多田労務管理事務所 代表
社会保険労務士
多田 嘉恵 氏

導入前の運用と課題

○欲しい情報をいつでも得られる環境にしたい

個人情報を取り扱うことが多い社会保険労務士の業務。入社・退社時の保険の手続きや扶養家族の増減などの身上変更は、クラウド導入前は顧問先へ電話やメールで確認していた。「最近では生まれるお子さんの名前が男女の区別が付きにくいことも多く、クラウド導入前はその度に電話で確認していました。しかし導入後は顧問先で個人情報をご入力いただければ、それを元にこちらの都合で処理できます。時間効率の面ではやはりスピーディに処理できるようになりました。また顧問先のある大手の企業様が税務調査の際、大至急で必要な書類を出して欲しいとご要望されることが多いのですが、そのやり取りにかなりの労力を要します。ご要望の資料をすぐに確認・出力ができる方法はないのかと考えていました。そんなときに私が労務管理の講演をしている PCA で、“クラウド”を使ったサービスがあると聞いたのです」(多田氏)



事業所にて撮影

導入後の効果

○事務処理の効率化

個人情報を扱う職種柄、クラウドには抵抗はなかったのだろうか? 「その点については当事務所と顧問先とで権限を厳密に分けることができることを知り安心しました。また個人情報は当事務所と顧問先だけが共有しており、PCA から個人情報が漏洩する心配ありません。権限についても実際うまく使い分けて使用しています。顧問先も不明点があればいつでも当事務所に聞くことができ、さらに我々も疑問点はいつでも PCA に確認できます。また保険料率は非常に細かく変更されており、かつては以前の保険料率で給与計算をし、後に修正するミスもありました。しかしクラウドならその心配もありません。顧問先と同じ画面を見ることで間違いがあればこちらで修正し、それを顧問先と共有できます」

実際に顧問先からの反応も非常に好評だという。現在 4 つの顧問先がクラウドを利用しているが、クラウド導入のための訪問は 2 回で済んでいる。「入力後のチェックが速くなった」「銀行の振込データが速く作れるようになったので安心」など、業務時間の効率化を実感する声が寄せられている。「当事務所の担当者が言うには、情報共有できることで逆に打ち間違っちはいけないというプレッシャーも

あるそうですよ(笑)」

○複雑な給与項目にも対応

労務管理・人事管理は経理よりもさらに複雑だと多田氏は言う。「労務や人事は会社によって違いがあります。もちろん給与計算もそれぞれに詳細は異なってきます。そのため計算式が非常に複雑になります。しかしクラウド導入時にそれらの計算式も PCA さんに手伝っていただきながら導入しました」。仕事柄、数多くの給与ソフトや会計ソフトを実際に見てきた多田氏だが、PCA のソフトやサービスはその中でも使いやすいと語る。「PCA の良さは応用が利きやすい点だと思います。例えば給与計算の場合、複雑な給与計算をする必要のある企業さんが私どもに依頼されます。なので応用の利くソフトやサービスでなければ対応できません。その意味では PCA は給与項目も多く設定でき臨機応変なため、いろんなパターンの企業に対応できますね」

○時間短縮よりも“質を上げる”ためのクラウド

『PCA クラウド』の導入によって、処理時間の効率化に成功した多田事務所だが、顧問先への訪問回数などはあえて減らさない主義だ。「私は何もなくても必ず月に1回は顧問先へ顔を出します。やは

り人間関係・信頼関係はこれからも密にとっていきたいからです。ではなぜ時間の効率化を促すクラウドを導入したのかと問われそうですが、クラウドによって事務的な処理時間をせっかく短縮できたのですから、その分、以前よりもさらに質の高いコンサルティングをご提供できる環境が整ったわけです。当事務所はただ給与計算を請け負っているのではなく、その企業の業務全般の見直しも含めた労務管理・人事管理が業務の大きな柱です。クラウドを使うことで、企業の信用問題に直結する給与の処理は確実にスピーディに対応し、そして労務管理・人事管理にはじっくりと時間を割く。私どもの社会保険労務士という仕事は、ある意味税理士さんよりも手間ひまがかかっていると私は考えています。確実に間違いのない事務処理と、手間ひまをかけた丁寧なコンサルティング業務の拡張。これらをしっかりと形にしなければこれからの社労士事務所は大きく成長できないと思います」

今後の課題と展望

○今後も“親切・ていねい・わかりやすい”サービス

多田労務管理事務所には医療・福祉関係の顧問先も多い。そのた



多田労務管理事務所 HP
http://tada-office.net/



多田労務管理事務所 HP内ブログ
「社労士多田の日々好日」
http://blog.livedoor.jp/yoshie_tada/

親切、ていねい、わかりやすい



多田労務管理事務所

Tada Labor Management Office

主な業務内容

【人事・賃金コンサルティング】

望ましい人事制度とは

社員の的確な評価や満足度をともに考えながらやる気を高め、組織の活性化と経営戦略の担い手育成で企業の成長・発展を実現すること。

人事制度は手段であって、目的ではありません。働く人々の満足度と企業の発展に重点を置き、経営目標の達成のため、企業に最もフィットした制度を策定することが肝心です。制度の構築と運用の比率を4対6とし、制度の構築は終点ではなく、むしろ起点であり、運用されてこそ価値があるとの考えで、未永い運用を見据えた制度作りを支援しています。人事制度の構築には次のようなサブ制度を明確にし、連結させることで有効に機能します。

【労務コンサルティング】

専門的な知識と経験で法改正や

労務管理相談に対応

毎年のように改正される労働法や、多様な人材の雇用でますます複雑になってきた企業の労務管理は、知識や経験なしでは対応できません。人事・労務の経験豊富で専門的な知識で、適切なアドバイスをいたします。

就業規則があっても、実際の運用と合っていない会社も多数存在し、そのため労働基準監督署の調査で是正勧告を受けて、多額の未払い残業代を支払う実例が後を絶ちません。個別労使紛争も多発している中、労務リスク回避の適切なアドバイスをいたします。社会保険労務士には守秘義務が課されているため個人情報も安全に管理いたしております。

【アウトソーシング】

煩雑な手続き業務・給与計算

・助成金申請の代行

事業主・従業員は会社業務に専念し、保険手続きを依頼したい。会社設立にともない新規事業所加入の手続きを依頼したい。そのほか助成金の申請など迷わずご一報ください。

労働保険の年度更新事務(4・5月)・社会保険の算定事務(7月)が、煩雑で企業にとって大きな負担となっています。私たち社会保険労務士は、労働社会保険の複雑で多岐にわたるさまざまな事務手続きを円滑に、しかも的確に処理いたします。また、法的改正が頻繁で手続きが非常に煩雑な助成金の申請も、ぜひおまかせください。

【経営労務監査のご提案】

労使トラブルを未然に防ごう手伝いをします

長時間労働から精神疾患にかり自殺、または過労死に至るなど、労務トラブルは注目すべき新型リスクです。うちの会社は大丈夫と思って取り組んでしまいがちなのが、コンプライアンスです。専門家と一緒に労務リスク軽減を考えましょう。

大手飲食業や流通業の店長クラスの名ばかり管理職問題・サービス残業問題について会社側が軒並み敗訴しています。社員側が労災認定を請求し、企業側に故意・過失が認められれば、使用者賠償責任を問われます。労務リスクを避けるには労務監査が有効です。

め変形労働のための給与計算が複雑になりがちだ。「変形労働時間は時間給も複雑になり、たいへん給与計算が難しくなります。当事務所では Excel®でオリジナルの勤怠計算ソフトを作ってみましたのですが、複雑すぎて結局運用はできないままでした。今後 PCA さんをお願いしたいことは、複雑な変形労働時間の職種でもスムーズな勤怠計算がクラウドを通してできるサービスを作ってもらいたいことですね。そして私どもの今後の目標としては、効率化というクラウドサービスの最大のメリットを活かしつつ、中小企業の皆さんのお役に立てるような質の高いコンサルティング業務を提供していきたいです。今後も親切・ていねい・わかりやすいをモットーに、多くの企業から頼られる存在でありたいですね」



『PCA給与X』導入によって、
200名を超える大規模事業所からの依頼が増加。
地方の中小企業が抱える
雇用問題の一部を補える給与ソフト

松浦労務管理事務所

昭和30年の設立以来、約60年にわたって広島県呉市の企業を支え続けている松浦労務管理事務所。呉市では最も大きな労務管理事務所、松浦充恭先生は特定社会保険労務士の資格も持ち、労使間の様々な問題解決にも尽力している。そのような人事・労務管理のプロに認められたのが『PCA給与X』だ。『PCA給与X』の導入によって大規模な従業員数の事業先からの依頼にも、余裕を持って対応できるようになったという。『PCA給与X』がどのように活かされているのかを伺った。

導入システム

・PCA 給与 X with SQL 10CAL

導入の狙い

- ・1,000人を超える大規模な事業所からの依頼に対応したい。
- ・複雑な計算式を入力したい。
- ・中堅企業の給与受託業務の作業効率化をはかりたい。

導入効果

- ・『PCA給与X』なら1,000人超の事業所の給与計算にも対応。
- ・『PCA給与X』なら自在に計算式を組める。残業計算も端数まで設定できる。
- ・『PCA給与X』の機能と『PSD社会保険労務士』の導入で、200名規模の処理が50%効率化。

プロフィール

松浦労務管理事務所

- 所在地:〒737-0081 広島県呉市西中央1-6-7
- 従業員数:9名
- 設立:昭和30年7月20日
(設立当時名:松浦労務士事務所)
- 主業種:社会保険労務士
- 業務内容:給与計算、社会保険、労働保険等各種手続き、不動産

□経営理念:

「顧客第一主義の松浦です。」

当事務所は労働・社会保険の手続き業務をベースに、給与計算や就業規則の作成・変更、賃金、労働時間、退職や解雇をめぐる諸問題解決のお手伝いなどをサポートする、社外の人事・労務管理の専門サポーターです。

人がやる気になる会社は必ず伸びる!労働者をやる気にさせる公平かつ合理的で納得性のある人事制度をご提案致します。松浦労務管理事務所にお気軽にご相談ください。

導入前の運用と課題

○大規模な従業員数の事業所にも対応できる給与ソフトに



松浦労務管理事務所
特定社会保険労務士
松浦 充恭 氏

松浦労務管理事務所が『PCA給与X』を導入したのは平成19年。約1,200名にも上る従業員を擁する事業所からの相談がきっかけだったという。当時、松浦労務管理事務所では他社の給与ソフトが使用されていたが、そのソフトでは1,200名規模の給与計算には対応できないことが判明した。当時の状況について給与計算を担当している岡本綾氏は次のように振り返る。

「以前のソフトでは『回数』は登録できましたが、『計算式』においては制限があり、その結果、個人個人のデータをいちいち開いて直接入力しなければなりませんでした。また1,000人以上の給与計算には対応できないと説明され、新しい給与ソフトの選定を始めました」(岡本氏)

いくつかの給与ソフトが選択肢に挙げられたが、その中でもいち早く『PCA給与X』に選ばれたという。当時の印象を松浦充恭先生は「『PCA給与X』は他社ソフトよりも一歩進んでいる印象でした」と語る。

実際にその印象通り、「大規模な従業員数の事業所にも対応できる」「複雑な計算式にも対応できる」という点で、『PCA給与X』は同事務所が考えていた給与ソフトのイメージに最も合致したという。『PCA給与X』の様々な特性を上手に利用することで、同事務所では時間的な効率化にも成功している。



事務所内風景

導入後の効果

○自由自在に組める「計算式」と、端数まで処理できる「残業項目設定」

まず選定のきっかけにもなった「計算式」について、岡本氏は「『PCA給与X』では事業所独自の計算式にも自由に対応できる」という点を高く評価している。様々な業種の事業所から依頼を受ける労務管理事務所では、この独自の計算式への柔軟性は大きな意味を持つ。計算式そのものはあらかじめ計算式テーブルを設定・入力しておけば、後で複雑な入力操作はしなくてもよい。パート従業員の精勤手当や営業成績によって変動する歩合給など、様々な種類の手当をこの計算式を用いることで対応している。

また残業計算においてもミスなく処理ができる点も高く評価されている。一例として製造業の場合は夜勤もあり残業計算は複雑になる。残業時間の掛率には注意が必要になってくるが、その部分を「残業項目設定」であらかじめ登録しておけば、複雑な残業計算もミスなく処理できる。

「残業式や残業掛率を、社員やパートなどの雇用形態に分けて登録できます。また非常に便利だなと感じたのが端数の処理ができる点です。単価・手当それぞれに1円未満は切り上げか切り捨てかを設定できます。この端数の処理は残業手当だけでなく遅刻や欠勤などの処理でも利用できます」(岡本氏)

この「計算式」と「残業項目設定」によって、様々な割増計算の処理が確実に迅速に行えるようになったと岡本氏は語る。また、この点は給与計算を依頼してくる事業所にとっても安心できる要素だろうと松浦氏は評価する。

「地方都市の中小企業では、経営者の高齢化が進んでいます。そのため手当の計算一つをとっても、難しい、わかりにくいなどの悩みやご意見をいただきます。このような部分を、『PCA給与X』によって確実に漏れなく処理できるわけですから、その点はご安心いただけたと思います」(松浦氏)

○CSV変換によって、顧問先の知りたい数字に答えられる

『PCA給与X』の特性の一つに、CSVデータ変換の容易さがある。『PCA給与X』では会社情報、給与体系、金融機関マスターや年末調整データなど、その他かなりの範囲でCSVファイルでの出力ができ、同事務所の場合は給与データをCSV保存し、Excel®加工するケースが多いという。

「当事務所にご依頼される事業所様の傾向としては、Excel®化して全体的な指標として見たいというご希望も当然ありますが、それ以上に一部分を切り取って知りたいというご希望が多いです。例えばある社員の賞与だけの合計データや、ある一定の期間における社会保険の総額など、部分ごとに数字を知りたいというご希望に応えるときに、このCSVデータの変換機能はとても助かります。仮にこれらの数字を手入力で抜き出し計算するとなるとミスの恐れがありますが、CSVデータならダイレクトに数字を取り出して加工できるので間違いは発生しにくいです」(岡本氏)

また逆に、事業所から受け取ったExcel®データをCSV保存し、『PCA給与X』へ取り込むケースもあるそうだ。「かなりの従業員を抱えた事業所様もあり、その場合にはこのCSVデータの受入は非常に助かっています。一度『PCA給与X』へ受入させたら、後は自動計算してくれますからね」(岡本氏)

他社製のタイムレコーダーシステムからの勤怠データも、CSV形式にすれば受入ができる。ある程度の紐付け作業が必要になるが、同事務所では1社の勤怠データ(CSV形式)を『PCA給与X』に取り込むまでの作業時間は約20分だそうだ。

○『PCA給与X』×『PSD社会保険労務士』※1の連携で労災関係の処理も確実に

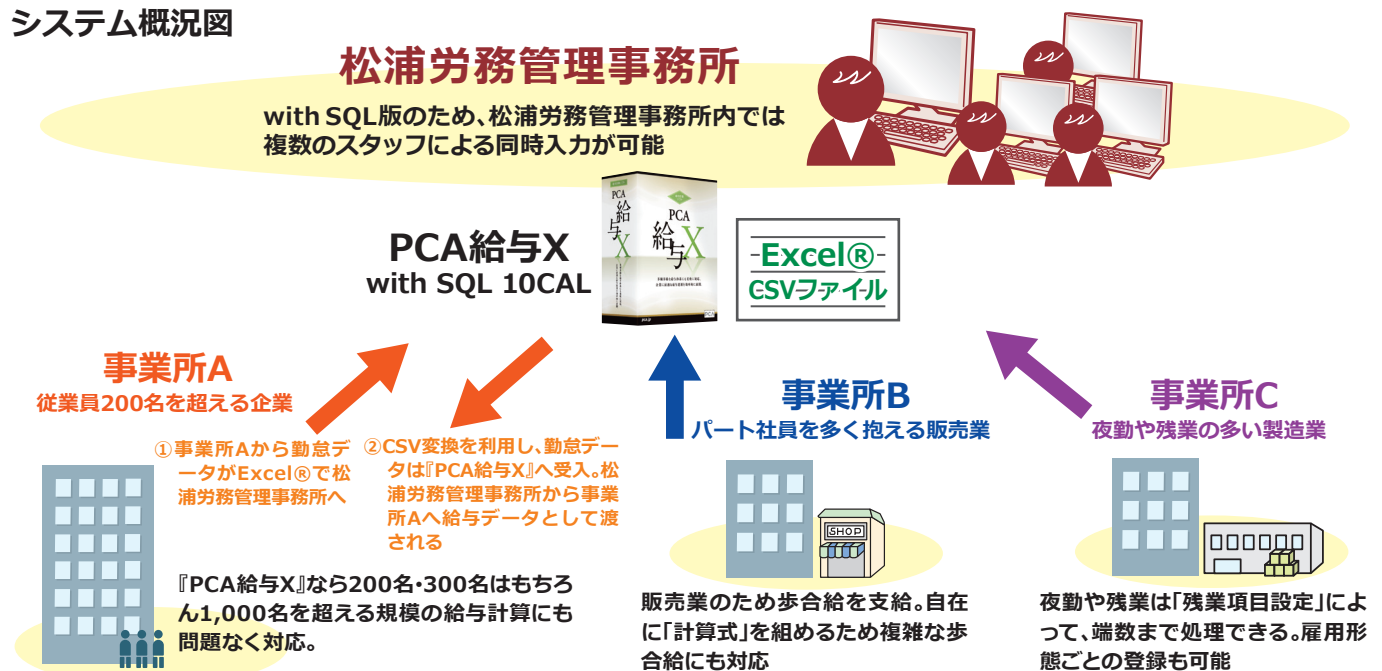
マスターナビゲータ機能もよく使われている機能の一つだ。マスターナビゲータを使うと、ある特定の項目を一括して入力・変更ができる。この機能が最も役立っているのが住民税や厚生年金保険料率の変更だという。



事務所入口にて

※ 1)『PSD社会保険労務士』は、(株)パシフィックシステムの製品です。

システム概況図





『PSD社会保険労務士』

『PSD社会保険労務士』は、社会保険労務士業務をサポートするシステムです。

事業所や被保険者の強力なデータベース機能を基に、被保険者の保険加入状況の検索、各保険における年齢到達者の検索、そして随時改定(月額変更届)や定時決定(算定基礎届)の自動判別計算、労働保険料の計算、各種届出用紙の作成、社員への保険料改定通知書の発行機能などを搭載し、全国発売24年を経て安定した実績のあるシステムとなっています。

『PCA給与』との連動

『PCA給与』と連動して個人・給与・賞与の汎用データの受け渡しを行うことができます。『PSD社会保険』は読み込んだデータをもとに、個人を自動登録します。また『PCA給与』からは汎用データを介さずに直接データを読み込みます。会社のデータを取り込んで自動登録することも可能で、簡単な操作でデータのやり取りができます。逆に『PSD社会保険』からは、個人のデータを『PCA給与』へ渡すことができ、相互のデータをフルに活用します。

データ受入機能

『PCA給与』で入力した、社員の基本データおよび算出した給与・賞与データを、『PSD社会保険』へ読み込むことができます。さらに社員データを読み込んだ時に、新しい個人として『PSD社会保険』へ自動的に登録することができます。この機能によりデータ入力の手間を、大幅に省くことができます。

データ転送機能

『PSD社会保険』にて入力した、個人のデータ、算出した保険料を、『PCA給与』で読み込むことができる外部マスター(社員マスター)として、出力することができます。『PCA給与』では受け取った個人データをもとに、自動的に社員マスターへ登録します。この機能により『PCA給与』でのデータ入力の手間を、大幅に省くことができます。

「マスターナビゲータ機能による入力は、打ち忘れが発生しません。個人個人のデータを開いて入力すると、やはり入力漏れのリスクはありますが、一括入力ならその心配はありません。また後で確認をする場合も、その部分だけ抽出して確認できます」(岡本氏)

また松浦労務管理事務所では『PCA給与X』と株式会社パシフィックシステムの『PSD社会保険労務士』を連携させて利用している。『PSD社会保険労務士』は労災に関する帳票が充実しており、給与・賞与関係の帳票はPCA、労災関係の帳票はPSDと分けて使っている。

「『PCA給与X』×『PSD社会保険労務士』の連携によって非常にスムーズに業務を行っています。この2つのソフトはCSV変換などの処理は必要なく、『PCA給与X』に入力したデータを、そのままダイレクトに『PSD社会保険労務士』へも反映でき、勤怠データや給与データをそのまま労災関係の帳票に利用できます。この部分は以前は手書きで行っており大変でしたが、PCAソフトの拡張性があったからこそ実現できた効率化の一つだと考えています」(岡本氏)

今後の展望と課題

○業務の効率化に成功し、大規模な事業所からの依頼も増加

『PCA給与X』の様々な特性を上手に利用することで、大きく業務を効率化できた松浦労務管理事務所。同事務所の推定では、約200人規模の事業所の給与計算については、以前のシステムとPCA導入後では50%の時間短縮ができたのではないかと

考えているようだ。労務管理事務所で行う各事業所の給与計算でこの50%の効率化は非常に大きいという。事務所内で行う計算時間が短縮できたことで、顧問先の事業所へ給与データや関係帳票を渡すこともその分はやくなり、顧問先にとってもよい効果が出ているようだ。

「実際にPCA導入による時間の効率化は目に見える結果に表れており、以前に比べて200名以上の大規模な事業所様からのご依頼も増えました。大規模な事業所様からのご依頼にはまだまだ対応できる体制になっています」(松浦氏)

現在、同事務所では『PCA給与X』を約70社の事業所で2,500名の給与計算に利用し、その業種も製造業や販売業など多種多様に広がっているようだ。

「現在、地方都市の企業では、経営者の高齢化や外国人労働者の問題など、今後の日本企業が取り組まなければならない雇用問題がすでに表出しています。年々、労働基準監督署の指摘も厳しくなっており、社会保険労務士でなければ対応できない問題がますます増えていくでしょう。そのような部分を『PCA給与X』で補っていかれたらと思います」(松浦氏)

ピー・シー・エー株式会社

pca.jp

Since 1980.8.1

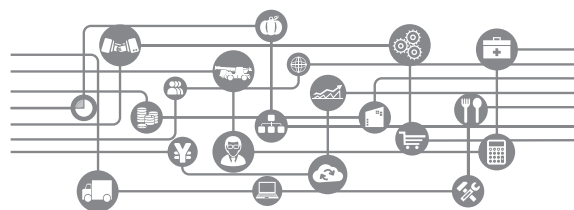
本社 〒102-8171 東京都千代田区富士見1-2-21 PCAビル TEL.03(5211)2700 FAX.03(5211)2740

※Access®は Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標です。

※Excel®は Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標です。

※会社名と製品名は、それぞれ各社の登録商標または商標です。

※記載内容は取材当時の情報を元に作成しております。現在とは内容が異なる場合がございますのでご了承ください。



ピー・シー・エー株式会社